

風



京老樹

佩

東山先生

佩

九·四·天·印

家集

明治乙未夏  
九山漁隱



凡例

一 京都名勝古蹟の夥多なる一々これを網羅細録すれば  
數十の冊數を層ぬるも尙足らざるを覺ゆべし今此小  
冊子に記述する所は未だ此地を觀ざる人の爲め尤も  
著名なる者のみを概記して聊かその指導に供するに  
過ぎき

一 遊覽個所の順序を立るは最も困難にして假令逐一こ  
れが順序を立てたりとも遊覽者各趨好する所あり必  
しも記述する所の順を追ひ序を守りて其地を踏破す  
るものは少かるべく各適宜の所より軫を發し興盡て

適宜の所に止まらんのみ或書には順覽すべき日數と  
 個所とを限りてこれを順記するあり又或書には中央  
 と東西南北の五部に分ちて録するあり又或書には市  
 と各郡とを區劃して記するありこれ皆著者の創意新  
 見に出でたるものなれども右にいひし如く必しも其  
 順序にこれを實踐する人は稀なるべし然ども順序紊  
 亂して東西混淆し南北錯雜せば覽者亦大に不便を感  
 ずるは必定なり今此書は鴨川以東を東部とし鴨川以  
 西を西部とし此兩部を以て畧其遊覽順序を立つ但し  
 東部は三條以北八幡大原に至ると三條以南伏見巨椋

を経て宇治に至るとの兩段に分てり西部は亦三條通  
 邊より起りて市の東北に至り東北より北西に亘り西  
 山を経て西南に出で再び市内に入る然れどもこれ編  
 者深く意を注ぎて標を立て準を定めしものにあらむ  
 唯區分の煩多なるを避けしのみ又皇居御苑は尊顯の  
 地に係り萬人の瞻仰する所なれば特にこれを發端に  
 置けり

明治二十八年三月

編者 職

京けんふつ目次

●山城國

御苑

●東部上

三條大橋

大極殿

南禪寺

若王子

岡崎町

京都市附各町名

皇居

第四回内國勸業博覽會

疏水運河

永觀堂

光雲寺

滿願寺

○目次

- 聖護院
- 織物會社
- 眞如堂
- 吉田神社
- 百萬遍
- 法然院
- 鹿谷
- 樓門瀧
- 大文字送火
- 詩仙堂
- 熊野神社
- 黒谷
- 吉田山
- 高等學校
- 銀閣寺
- 安樂寺
- 談合谷
- 如意嶽
- 白川村
- 修學院離宮

- 比叡山
- 御蔭社
- 大原の里
- 融通寺
- 音無瀧
- 證據彌陀
- 阿彌陀寺
- 麗の清水
- 東部下
- 蹴上
- 赤山社
- 八瀬の里
- 惟喬親王墓
- 來迎院
- 圓融院
- 後鳥羽順徳二帝陵
- 寂光院
- 江文社
- 栗田口



栗田神社	青蓮院
智恩院	八坂神社
圓山	長樂寺
將軍塚	祇園町
四條橋	四條積納涼
蛭子社	建仁寺
有樂館	東大谷
雙林寺	安井神社
高臺寺	靈山
八坂塔	庚申堂

子安觀音	清水寺
清閑寺	愛宕念佛寺
六波羅密寺	六道珍皇寺
西大谷	鳥邊山
五條坂	清水燒陶器
若宮八幡宮	小松谷正林寺
大佛殿	豐國神社
耳塚	妙法院
智積院	帝國博物館
新日吉神社	三十三間堂

新熊野神社	劔神社
泉涌寺	新熊野觀音寺
瀧尾神社	東福寺
稻荷神社	深草里
勸修寺	隨心院
醍醐寺	三寶院
一言寺	日野藥師
藤森神社	墨染寺
桃山	桓武天皇陵
御香宮	伏見町

觀月橋	巨椋湖
宇治	平等院
宇治神社	興聖寺
三室戸寺	黃檗山萬福寺
●西部上	
本能寺	妙滿寺
草堂	下御靈神社
京都博覽會場	梨木神社
相國寺	同志社
上御靈神社	下加茂神社

上加茂神社	本浦寺
實相院	鞍馬山
貴船神社	今宮神社
大徳寺	建勳神社
金閣寺	平野神社
北野神社	西陣
等持院	龍安寺
妙心寺	仁和寺
高雄神護寺	櫻尾西明寺
梅尾高山寺	太秦廣隆寺

廣澤池	大澤池
大覺寺	清涼寺
愛宕山	二尊院
常寂寺	野宮
天龍寺	嵐山
法輪寺	松尾神社
梅宮神社	桂離宮
大原神社	勝持寺
粟生光明寺	向神社
長岡天満宮	寶寺

離宮八幡宮

●西部下

二條離宮

壬生寺

本國寺

東本願寺

因幡藥師

佛光寺

新京極

●雜之部

男山八幡宮

神泉苑

嶋原

西本願寺

東寺

御影堂

六角堂

官衙

會社及銀行

各種協會

各種商工

料理及貸席

遊廓青樓

寄席

各地里程

學校

重要物產

諸名家

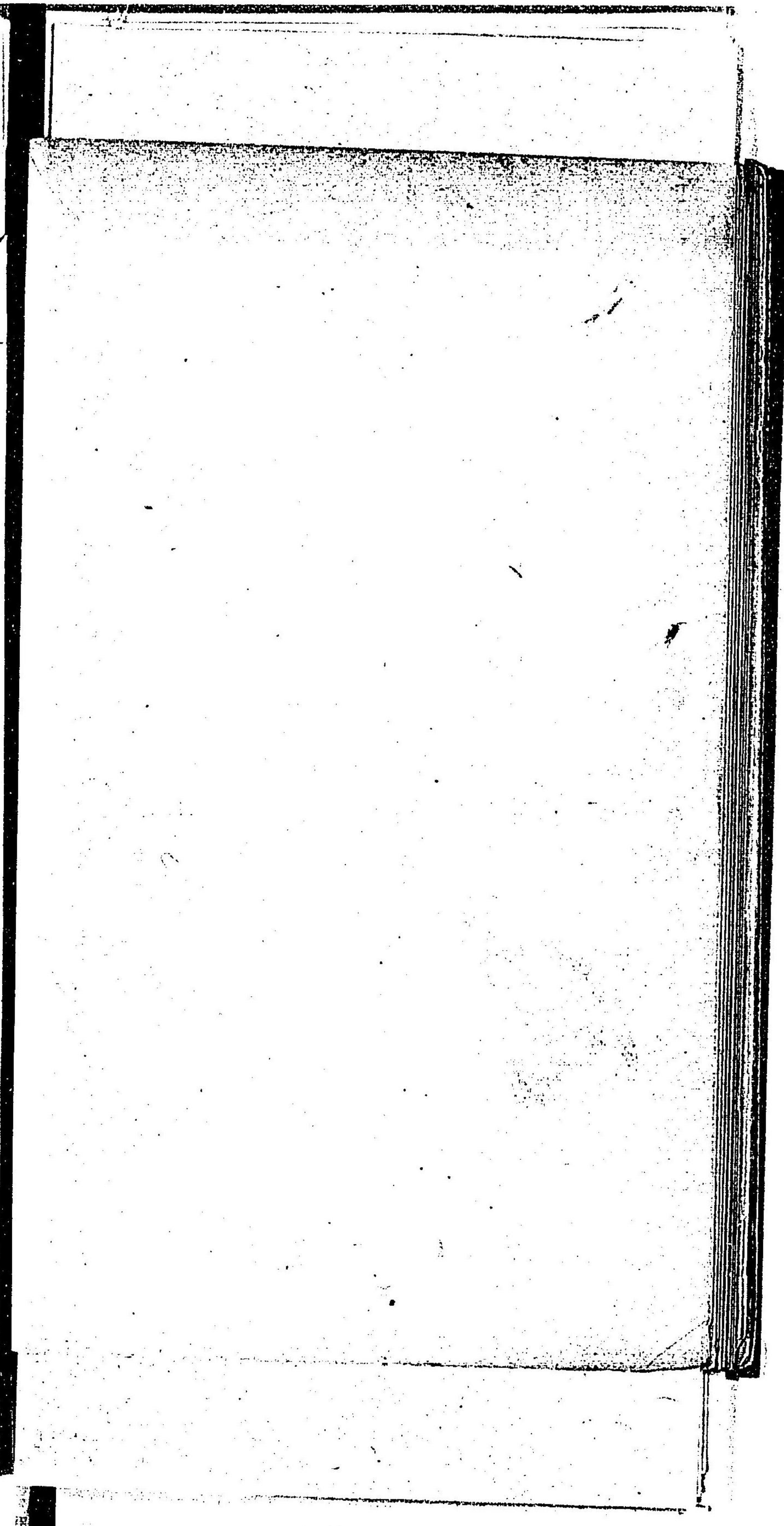
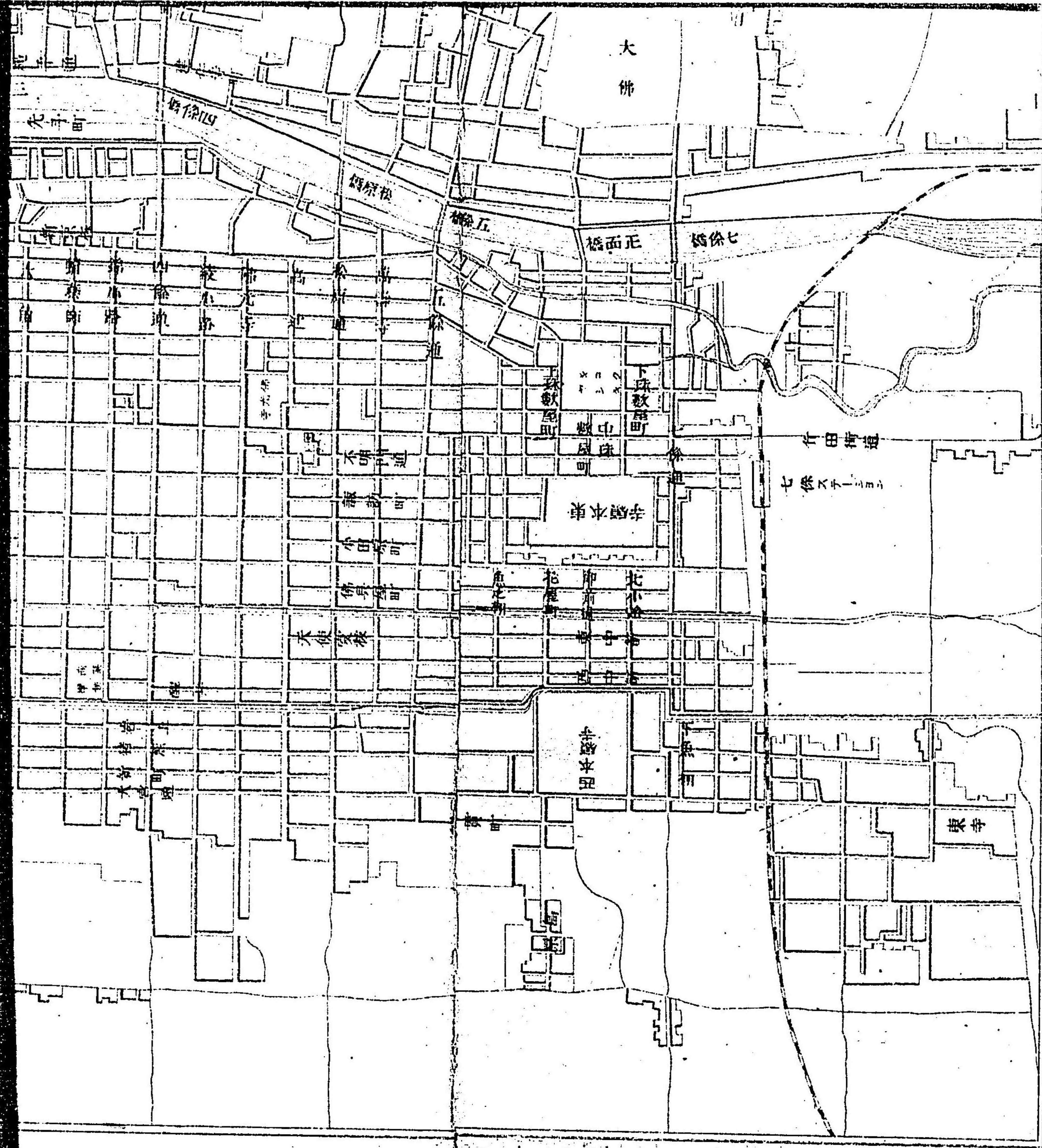
旅店

遊廓所

演劇

雜興行場

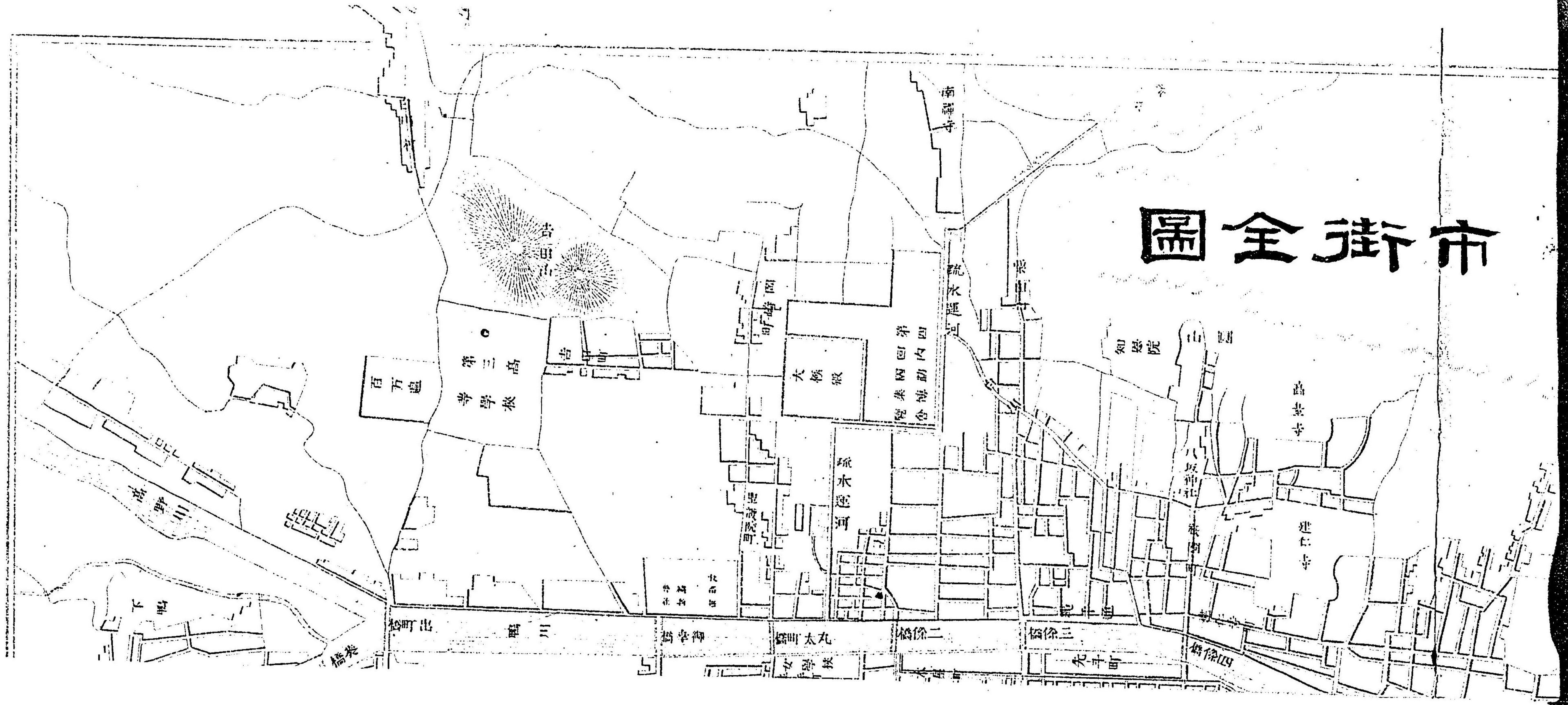
花候

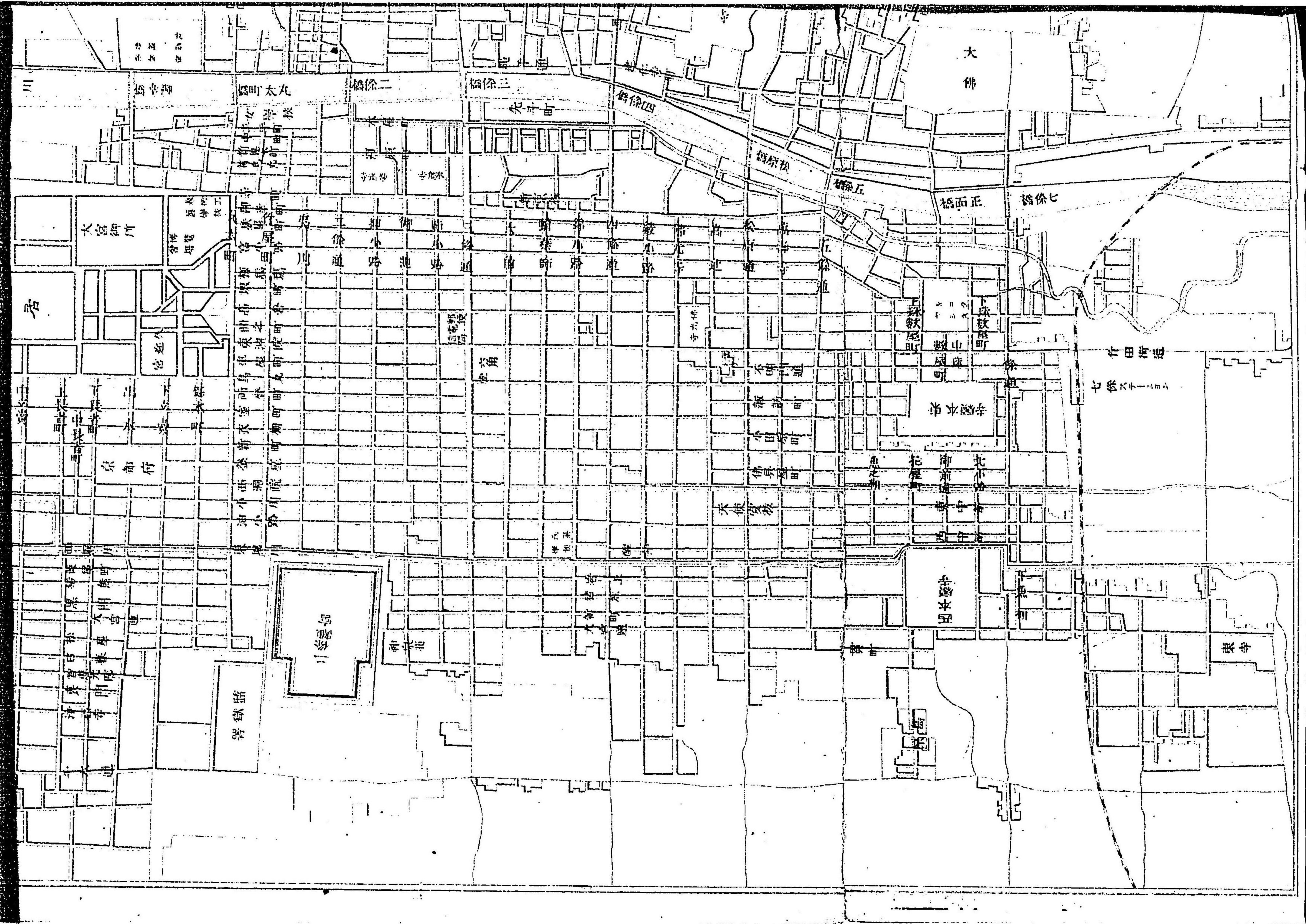


# 市街全圖



# 市街全圖





川

大佛

橋除二

橋除三

橋除四

橋除五

橋除七

橋而正

橋除七

大宮御所

宮庭

京都府

署獄監

二

神

大

木使

佛

寺

家寺

竹田街道

七

寺

花

御

北

魚

新

寺

西

中

寺

下

三

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

寺

寺

東

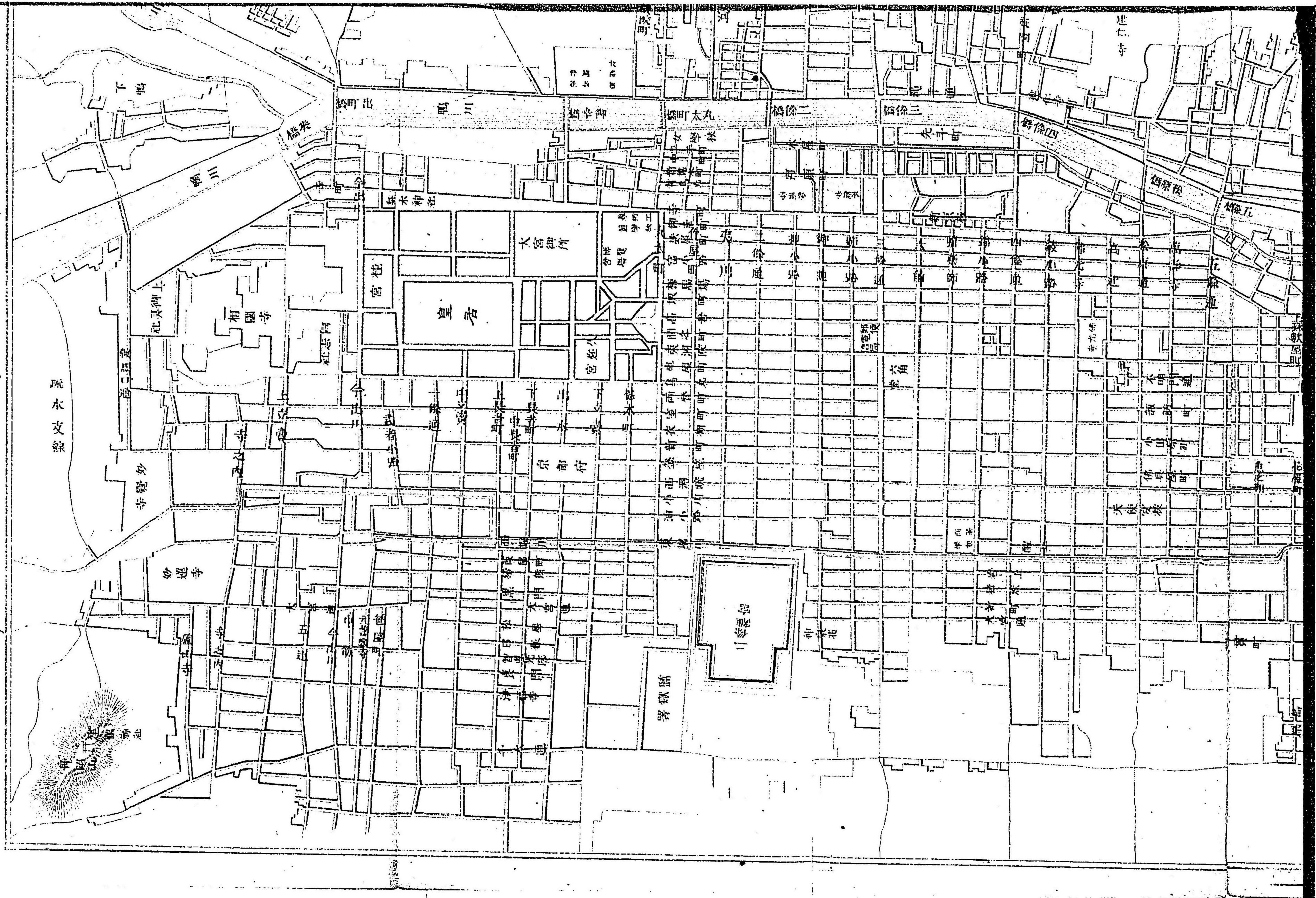
寺

寺

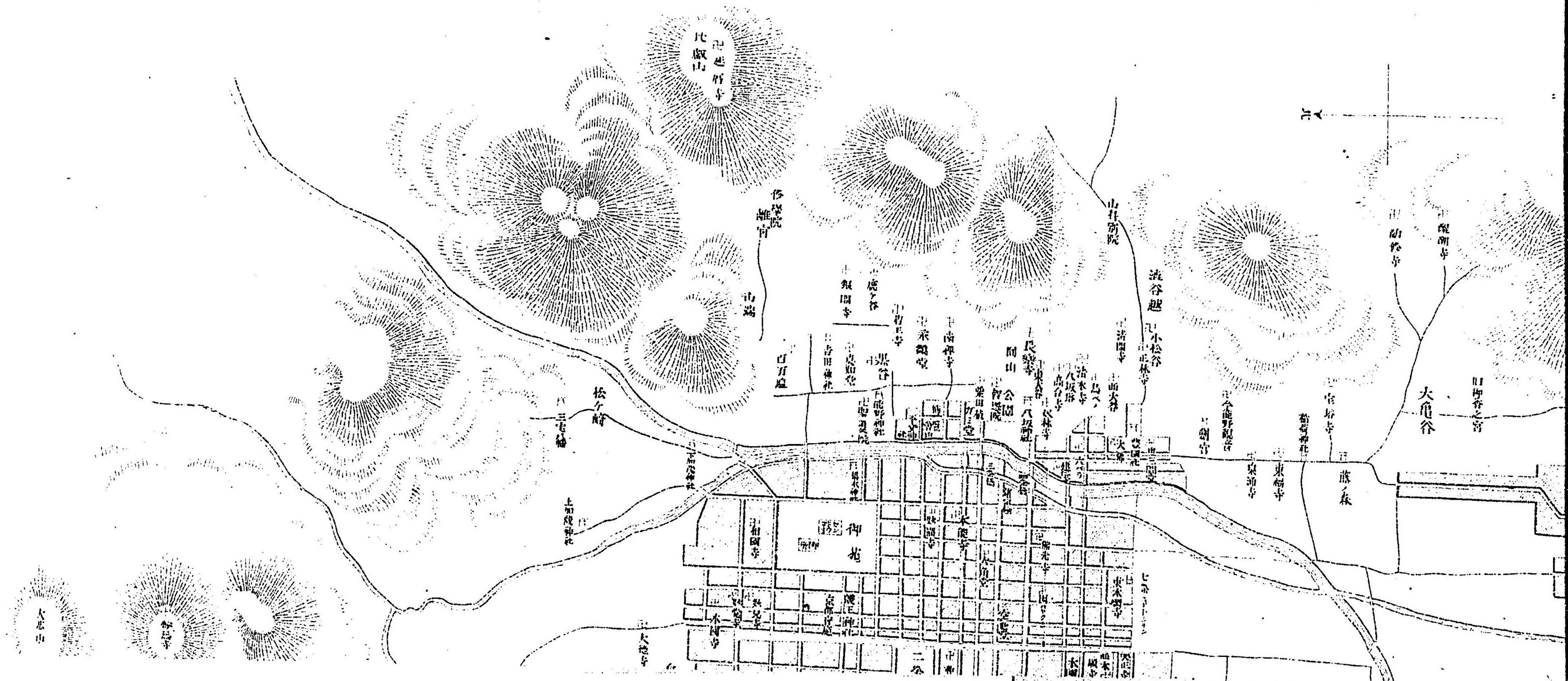
東

寺











小松池

伏見

山崎

橋本

大將軍

往御宮

向日町

小谷山

嵐山

而岩倉

上野

日个宮

船岡山

三本堂

日野山

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

近附街市勝名圖略



京けんぶつ



山城國は畿内の東北隅に位し西經三度四十六分より同  
 四度九分に至り北緯三十四度四十二分より三十五度十  
 四分に至り東西十四里南北十六里の間に在り東南は近  
 江伊賀大和に界し西北は河内攝津丹波に接す峯巒起伏  
 して東北西の三面を圍繞す中央地勢平濶にして延いて  
 西南河内攝津に至る南部亦伊賀大和の諸山脈を以て抱  
 擁す眞に山河襟帶自然に城をなすの國とは是れなり面

○山城國



積五十二方里一市八郡あり京都市愛宕郡葛野郡乙訓郡  
紀伊郡宇治郡久世郡綴喜郡相樂郡といふ戸數十一萬二  
百四十八戸人口五十二萬三千七百三十三人を有す

京都市

京都市は山城國中央にありて東北は愛宕郡に接し西南  
は葛野郡に接す東南少しく紀伊郡に接し又東部は近江  
及び宇治郡に接する處あり東西二里九町南北一里三十  
三町面積一方里八分六釐町數一千六百八十九町戸數六  
萬六千二百五十六戸人口三十一萬六千二百九十二人あ  
り東北に比叡山鞍馬山あり西に愛宕山あり共に帝都の

鎮たり河川は東に鴨川高野川白川あり西に桂川あり市  
街に高瀬川西洞院川堀川等あり近年疏水開鑿の大事業  
落成するに及て南禪寺町より鴨川に達し更に鴨川の沿  
岸より伏見に達するの運河あり運輸の利便いふべから  
せ橋梁には葵橋出町橋御幸橋丸太町橋二條橋三條橋四  
條橋松原橋五條橋正面橋七條橋等ありいづれも鴨川に  
架せり市街を二區に分ち三條通以北を上京とし以南を  
下京とす街衢井然として宛も碁盤目の如く戸口稠密に  
して家々櫓を連ぬ氣候は四時共に中和なれども冬時は  
寒氣勁し風俗儉素にして能く業務を勤め言語靜穩なり

飲食を節約し服飾の美を悦ぶの風あるに至りては世人の夙に能く知る所なり近傍山水明媚にして名祠古刹に富み到るところ名勝舊跡ならざるはなし物産は美術工藝に屬するもの多く其製作殊に風韻雅致ありこれ市民優美温雅の思想自然藝術上に發顯するに因るといふ又美術工藝の古物に富み社寺及び富豪好事家の貯藏する所は美術家の模範歴史家の考證となるものありといふ今産出物の大畧を擧ぐれば西陣織物刺繡綵纈染物幽禪染粟田焼陶器清水焼陶器七寶焼銅器及び金屬器漆器團扇扇子金銀箔絲組物金銀絲押箔玩弄品針錫細工簾樂器

花簪小町紅白粉京人形伏見人形茶生絲晒木綿菜蔬類千枚漬驚不知筍松茸鮎鯉年魚等その重なるものなり今京都沿革の大要を述べれば昔時桓武天皇延暦十二年正月藤原小黒麻呂紀古佐美大僧都賢璟等に勅して山背國葛野郡宇多村の地を相せしめ給ふ是より先き長岡の京を造營せしめられたれども長岡は土地狹小にして帝都の地に相應せざれば遂に此地を奠鼎の地と定められ延暦十三年十一月廿一日長岡より遷御あり同十二月詔して山背を山城と改め新都を平安城と稱せらる實に山河襟帶四神擁護の靈地にして萬代不易の帝都と定りぬそれ



より年々經營あり同十五年正月元旦には始て大極殿に於て群臣拜賀の式を受けられたり當時平安京市街の大畧は北は一條より南は九條に至り東は京極より西は西京極に至る南北一千七百五十三丈一里十二町四十四丈一里五町四あり四周繞すに外垣を以てす南面の正門を羅城門といふ街衢は南北に十一の大路、二十八の小路を布き東西に九の大路、二十四の小路を布き朱雀大路を中央としその東を左京といひその西を右京といふ又四十丈を一町とし四町を一保とし四保を一坊とし四坊を一條とす其坊名を擧れば北邊桃花銅駝の三坊は左右兩

京に通じて相同じく左京に教業永昌宣風淳風安衆崇仁陶化の七坊あり右京に豐財永寧宣義光德毓財延嘉開建の七坊あり又左右兩京に各京職市司ありて市街一切の事を掌る又大内裏は平安城の正北に位し北は一條より南は二條に至り東は大宮より西は西大宮に至るの間にあり南北四百六十丈東西三百八十四丈あり四方に十二の宮門を開き南面の正門を朱雀門といふ大極殿武德殿皇居其他太政官八省百司諸寮の建物皆此中にあり其規模の宏壯なる其區畫の整正なる實に萬世不遷の神京たりさて延曆後凡そ三百餘年間は平安京尤も全盛を極め

たりしが王政漸く衰へ藤原氏權を專にせし頃より市街漸次東北に偏小し治承の大火源平の戦争数回の變亂を蒙り應仁の亂に至ては釐下大に亂れ京都殆ど衰頽荒廢に趣きしが永祿十一年織田信長兵を擧て京師に入り盡く福亂を蕩げ皇室を尊び皇居を造進せり續て豊臣氏の時に至り四方に大土居を作り伏見に桃山城を築き市中の各寺を東京極寺町通に移し市街を整理し市民を完聚し大に面目を改めたり又大内裏の舊地に聚樂第を營し正親町天皇の行幸を請じ奉りし事あり是より平安京再び繁盛の運に復し以來徳川氏起て二條城を築て所司代を

置き伏見に奉行を置き大に民業を獎勵し戸數人口年を追て増加し終に人煙稠密の地とはなれり明治王政革新宮城を江戸に遷され稍往時の繁盛を減殺せりといへども依然舊名を存して京都と號し又即位大嘗會の大典はこれを當地に舉行せらるること公布せられ皇居並に二條桂修學院の離宮には年々保存修築を加へらるまた東海道鐵道琵琶湖疏水運河電氣鐵道等の事業落成し運輸至便の地となり其他諸宗各本山概ね此地に在るを以て諸國の信徒來り賽する者年々幾萬といふことを知らざる實に後來の隆盛期すべきなり

京都の名勝古跡は過半市外に在れども官衙學校製造所  
 其他各種肆店等は市街中に在るを以て遊覽者は必き先  
 づ縦横の町名を知らざるべからざる全市街町名の多き一  
 千六百以上に達すれども此等は皆其小名にして假令市  
 中土着の人たりとも悉く之を記憶するものなし京都市  
 街は東京其他の市街と殊にして縦横基盤割なれば一々  
 其小名を唱へせ唯縦横通の二名を擧ぐれば其所を尋  
 ぬることを得べし即ち南北を縦とし東西を横とす縦通  
 なれば北に往くを上るといひ南に往くを下るといふ横  
 通なれば何通を東に入る西に入るといひ總て此二言を

以て其所を尋ぬれば紛るることなし但し場所によりて  
 は特に其小名等を唱へざれば知れがたき所もあれども  
 此等は稀にして多くは市街歪みて錯雜したる所にあり  
 今縦横大道の名を掲ぐることに左の如し

縦通

- 大和大路 北は三條より南は伏見街道に接し其内三
- 五條町と稱す ●川端通 南北は三條町に至る ●土手町通 北
- 仁寺町と稱す ●中町通 北は丸太町一町上 ●木屋町
- 九太川に至る ●河原町通 北は松原町至る ●新橋
- 通 北は七條至る ●新島丸通 南北は二條神口至る ●
- 木町通 南北は二條町至る ●



北下立寺之内至り南 ● 千本通 口北は至り其峯より南羽は淀丹波  
 ● 六軒町通 北は立上立費に至り南 ● 七本松通 北は南五辻  
 至る ● 御前通 北は下立今出川至り南  
 下立費御前通 北は下立今出川至り南

横通

● 鞍馬口通 西東はは新町鴨に至り ● 廬山寺通 西東は千本宮に至り  
 ● 寺之内通 東は千本室に至り西 ● 上立賣通 西東は千本宮に至り  
 ● 五辻通 東は御前大通宮に至り西 ● 今出川通 西東は北町野  
 ● 中筋通 東は千本大宮に至り西 ● 元哲願寺通 東は西新野  
 ● 笹屋町通 東は千本大宮に至り西 ● 武者小路通 東は西新野  
 ● 一條通 東は千本大宮に至り西 ● 中立賣通 東は西新野  
 川より西は小一條通 東は千本大宮に至り西 ● 中立賣通 東は西新野

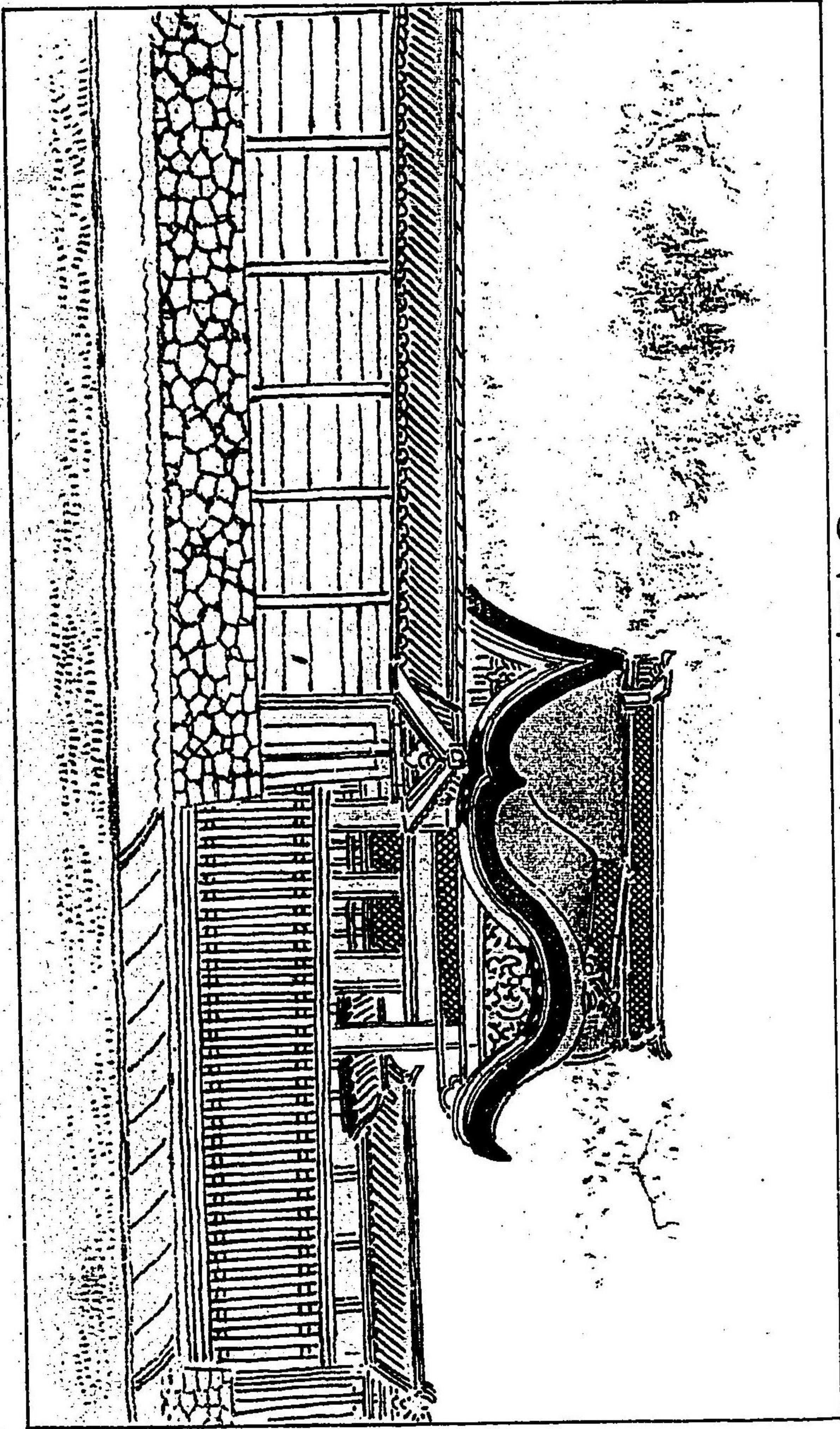
木より西は千上長者町通 同上 ● 中長者町通 東は西は室油町小  
 路に ● 下長者町通 東は千本大宮に至り西 ● 出水通 東は西は室油町小  
 七本松 ● 下立賣通 東は千本大宮に至り西 ● 榎木町通 東は西は室油町小  
 ● 九太町通 東は千本大宮に至り西 ● 竹屋町通 東は西は室油町小  
 四日暮 ● 夷川通 東は千本大宮に至り西 ● 二條通 東は西は室油町小  
 堀川に西は ● 押小路通 東は千本大宮に至り西 ● 御池通 東は西は室油町小  
 西は ● 三條通 東は千本大宮に至り西 ● 六角寺  
 西は ● 三條通 東は千本大宮に至り西 ● 六角寺  
 ● 蛸薬師通 ● 錦小路通 東は千本大宮に至り西 ● 六角寺  
 ● 蛸薬師通 ● 錦小路通 東は千本大宮に至り西 ● 六角寺  
 條通 東は千本大宮に至り西 ● 六角寺  
 壬生村 ● 佛光寺通 東は千本大宮に至り西 ● 六角寺  
 壬生村 ● 佛光寺通 東は千本大宮に至り西 ● 六角寺

大宮に ● 松原通 東を清水坂村に西千 ● 萬壽寺通 東は  
 堀川に西 ● 五條通 西は大宮谷に ● 雪路屋町通 東は  
 東洞院に西 ● 鍛冶屋町通 ● 的場通 東は上院いづり東は  
 至町 ● 魚棚通 東は下井寺に ● 萬年寺通 東は西寺  
 至丸 ● 上珠数屋町通 西は御影丸堂新道 ● 花屋町通 東は  
 新井町 ● 正面通 東は大馬場 ● 中珠数屋  
 町通 東は烏丸 ● 御前通 東は新井 ● 下珠  
 數屋町通 東は烏丸 ● 北小路通 東は西  
 大宮 ● 七條通 東は大和路 ● 丹波西千木朱雀村を ●  
 鹽小路 東は大宮洞院 ● 八條通 東は八條村 ● 九

條通 東は大宮に西  
 京都より大阪に赴くには蒸車の外に淀川漁船あり賃錢  
 安廉なれば時を惜まざるものはこれに乗るも可なり其  
 船乗場は伏見にあり  
 京都より伏見に赴くには電氣鐵道の外に鴨川運河を舟  
 に乗り徐々兩岸の風景を眺めつゝ南行するも興あり又  
 車行には竹田街道の東南端よりするものと伏見街道と鴨川  
 山中のよりするものと二道あり  
 京都より大津に赴くには蒸車の便あれども七條停車場  
 は京都の南端にあり馬場停車場は大津の東端にあれば

三條通邊に宿泊するものは馬車或は人力車にて赴く方  
 却て便なり又疏水運河を舟に乗り途中の風景疏水開鑿  
 工事の有様を観ながら赴くも亦興味あり疏水舟乗場は  
 三條通の東端蹴上にあリ其外濫谷越白川越等あれども  
 道路險隘にして歩行せざれば赴きがたし  
 京都より奈良に赴くにも鐵道あり時間を厭はざれば車  
 行するも可なるべし京都より各地に附せり  
 電氣鐵道は本年新に落成したる工事にして其線路三  
 一線は七條停車場より竹田街道を南行して伏見  
 淀川舟乗場に至る又一線は七條停車場より五條小橋に

至り高瀬川に沿ひ木屋町通に直北に四條三條を過ぎ二  
 條橋を東に渡り博覽會場の前を経て南禪寺インクライ  
 ンの傍に至る又一線は木屋町通二條より岐れて二條通  
 寺町に出でそれより御苑に沿ひ裁判所府廳を経て二條  
 の北に至る



門脚之曰所脚



御苑

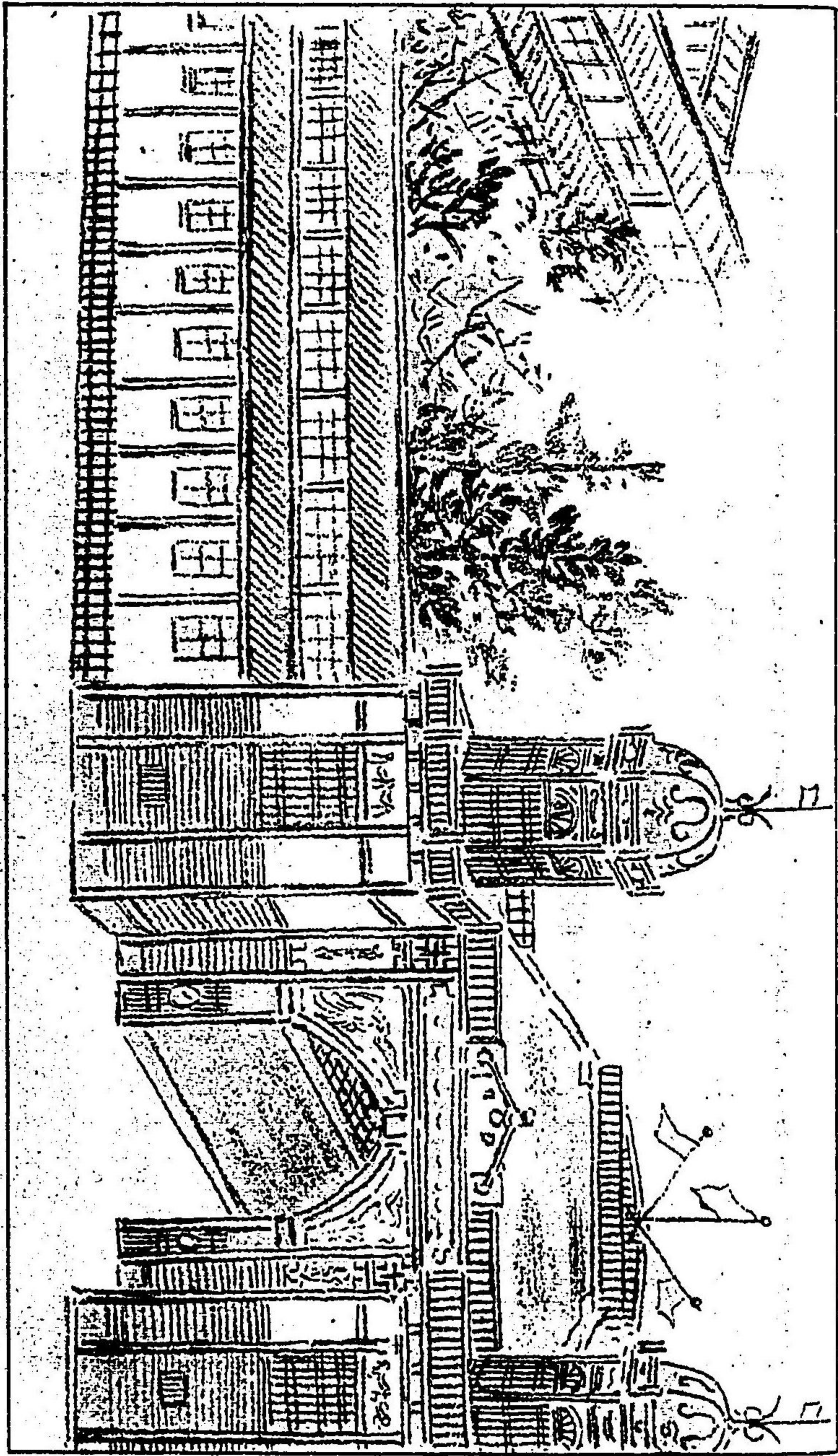
御苑は皇居の在る所にして東は寺町より西は烏丸に至り北は今出川より南は丸太町に至る四面繞すに石垣を以てし其上に樹木を植う南面に堺町御門あり東面に寺町御門清和院御門石薬師御門あり北面に今出川御門西面に乾御門中立賣御門蛤御門下立賣御門あり苑内は一  
面芝伏にして縦横に廣衝を開き櫻柳梅桃の諸樹を栽せり池水あり清泉あり四時の眺望佳ならざるはなし舊公卿の邸宅は多く此苑内にありしが明治遷都と共に之を撤去し今は開て廣漠たる苑地となれり

○御苑

皇居は御苑の中央にあり安政三年の御造營にして南面の正門を建禮門といひ東面にあるを建春門又日御門といひ西面にあるを宜秋門又公卿門といひ北面にあるを朔平門といふ又内廓に三門あり中央を承明門といひ東を日華門西を月華門といふ内廓の中央に紫宸殿あり紫宸殿は公儀正式を行はせ給ふ所にして中央に玉座を設く殿の南階の左右には左近櫻右近橘あり紫宸殿の西に清涼殿あり東北に小御所及び常御殿あり北に准后御殿等ありこれを紙上に細録するは恐懼の至に堪えを只其概略を記するのみ

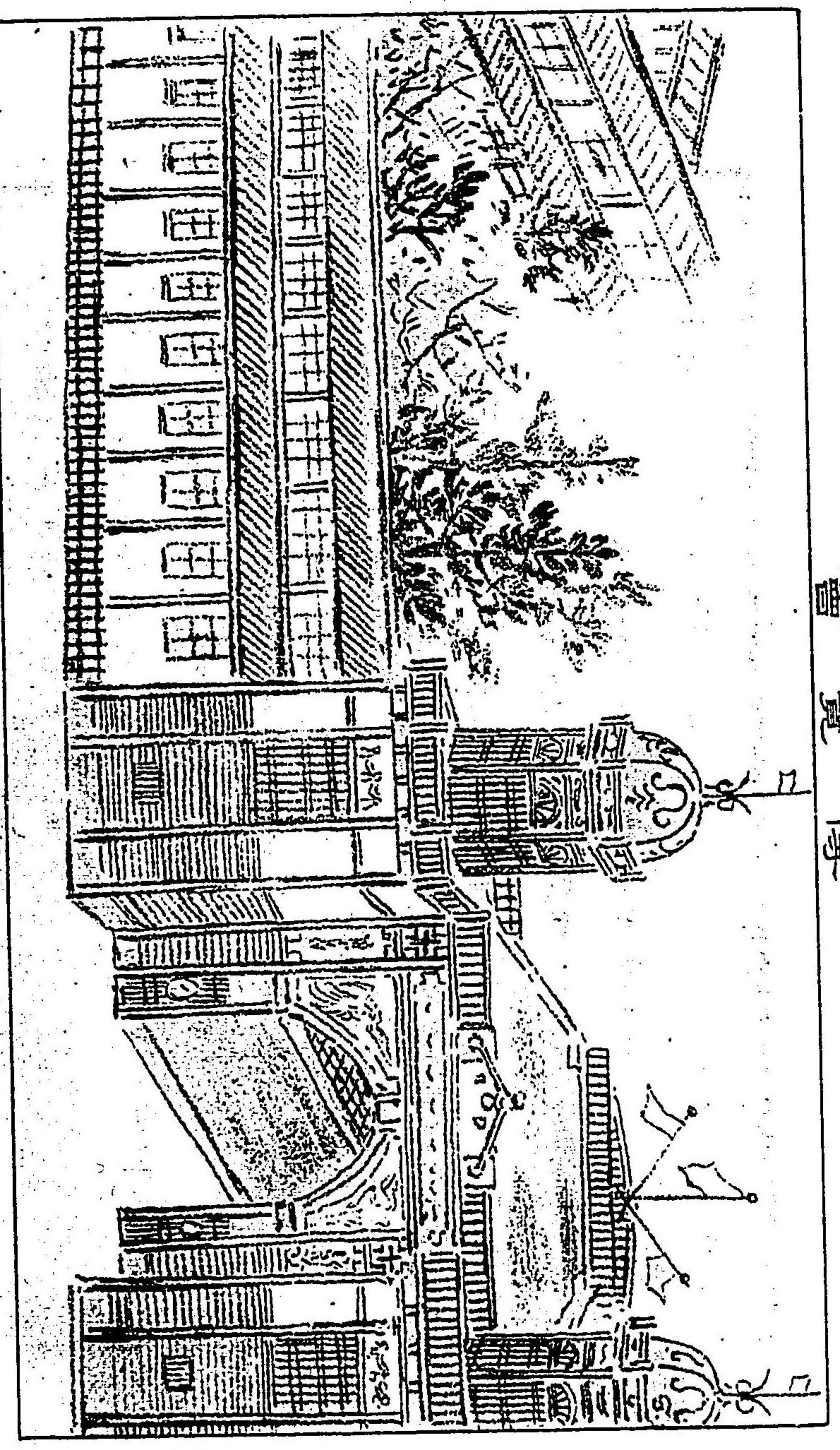
拜する者に限り主殿寮出張所に  
 仙洞御所は皇后の東南にあり現今は舊址のみにて宮殿なけれども林泉園池の景は尤も幽雅なり毎年博覽會開拜觀を仙洞御所の北に大宮御所あり桂宮は皇居の北にあり其東に祓井あり舊中山家の邸地にして今上帝御産湯の井なり車返櫻は中立賣御門内にあり久邇宮は皇居の西南にあり其南に主殿寮出張所あり白雲神社は久邇宮の東北にあり宗像神社は久邇宮の南にあり御候所は堺町御門内の東にあり其東に京都博覽會場あり又其東南に美術工藝學校あり

東部上八幡川以東三條以北  
 三條橋 三條通鴨川に架す明治二十七年の修築に係り  
 京都三大橋の一たり長さ六十三間幅四間あり三條通  
 は京都上下兩京區の區界線にして且つ東海東山諸道  
 に通ずる國道線なり又此橋は里程の元標にして京都  
 より各道に至る起本點とす橋上旅客の往來日夜頗繁  
 織るが如し豊臣秀吉の初めて架設したる時の擬寶珠  
 あり其銘にいはく洛陽三條之橋至後代化度往還人盤  
 石之礎入地五尋切石之柱六十三本蓋於日域石柱濫賜  
 乎天正十八年庚寅正月日豊臣初之御代奉増田右衛門



三條橋

東部上八瀬川以東三條以北  
 三條橋 三條通鴨川に架す明治二十七年の修築に係り  
 京都三大橋の一たり長さ六十三間幅四間あり三條通  
 は京都上下兩京區の區界線にして且つ東海東山諸道  
 に通ずる國道線なり又此橋は里程の元標にして京都  
 より各道に至る起本點とす橋上旅客の往來日夜頗繁  
 織るが如し豊臣秀吉の初めて架設したる時の擬寶珠  
 あり其銘にいはいく洛陽三條之橋至後代化度往還人盤  
 石之礎入地五尋切石之柱六十三本蓋於日域石柱濫觴  
 乎天正十八年庚寅正月日豊臣初之御代奉増田右衛門



三條橋

尉長盛造之

三條橋より博覽會場に至る間に檀王法輪寺頂妙寺要法寺等の寺院あれども境内別に觀るもの多からざればこれを録せざ

第四回内國勸業博覽會 上京區 内國勸業博覽會は明治十年東京上野公園に於て開設せしを始とし爾來第二第三回まで皆これを同地に於て開設せしが第四回は明治二十八年京都に於て桓武天皇平安遷都千百年紀念祭の舉行と共に京都市民はこれを京都市に開設せんことを申請したり幸に政府の採納と議會の協賛と

を得て終にこれを京都市上京區岡崎町に開設すべし  
 事とはなれり爾來今日に至る官民の經營朝野の熱望  
 實に容易ならざといふべし  
 博覽會場の景況大極殿の構造等は遊覽者皆これを實  
 地に就きて目撃すべければ亦これを一々細録するの  
 要なけれども今其大要のみを略記せん  
 第四回内國勸業博覽會は明治二十八年四月一日を以  
 て開會し同七月三十一日を以て閉會す但し動物館に  
 限り五月一日より同十五日までと同二十六日より六  
 月九日までの兩度に之を開く入場券は日曜土曜平日

の三種に區別し日曜日は入場券紅色金拾錢土曜日は  
 白色三錢平日は青色五錢なり褒賞授與式は七月十一  
 日これを執行す其他の細則等は會場に掲  
 會場は壯大なる建築にして大極殿の南にあり疏水運  
 河其前を流れ更に北折してその西面を過ぎ鴨川に達  
 す會場の前面運河に架する橋ありこれを慶流橋とい  
 ふ橋と門との中央に噴水あり左右栽るに花卉樹木を  
 以てすいづれも壯觀を極めざるはなし會場は總面積  
 八萬餘坪にして場内を工業館器械館農林館水産館美  
 術館動物館等に區劃せり又陳列品はこれを七部に類

別し第一部は工業第二部は美術及び美術工藝第三部は農業森林及び園藝第四部は水産第五部は教育及び學術第六部は鑛業及び冶金術第七部は機械等なり其陳列館を掲ぐれば左の如し

工業館 第一部工業第五部教育及第六部鑛業及びの出品を陳列す表門を入りたる所にあり出品の多きこと諸館中第一に位す

器械館 工業館より廊下を経て右に在り農林館と相對し第七部機械の出品を陳列す

農林館 器械館と相對して西にあり第三部農業森林

の出品を陳列す

水産館 器械館の東にあり第四部水産の出品を陳列す又本館には水族室あり生魚を陳列す

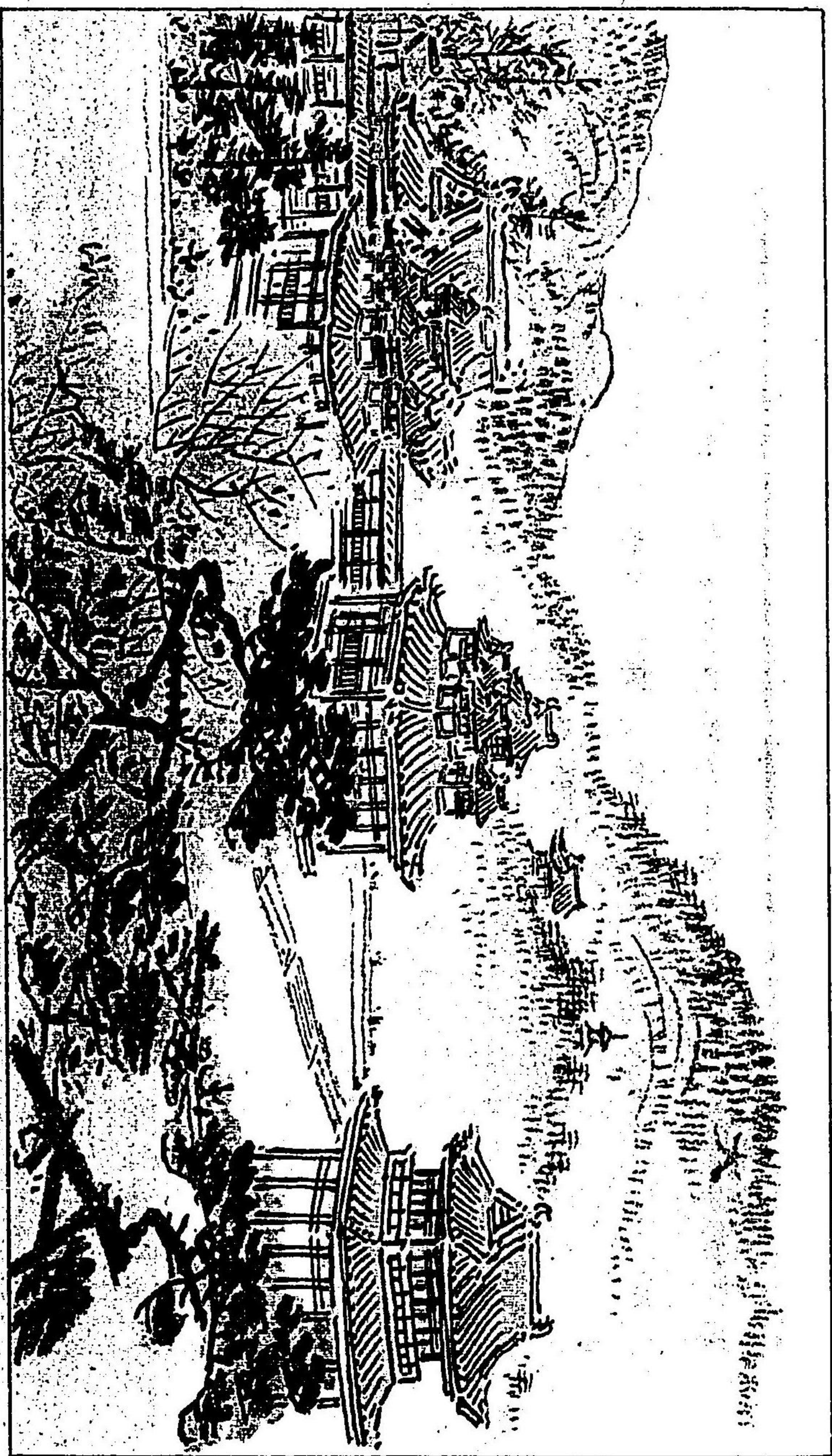
美術館 水産館の北にあり前に噴水あり第二部及美術の出品を陳列す美術館は本會閉會後といへどもこれを保存して永く縦覽せしむ故に其建築も亦自ら他館と異れり

動物館 會場の東端にあり二棟の建物より成る第三部中農業に關する出品を陳列すまた牧夫舎飼焚所を其東に設く

○大極殿

事務局及び審査室は會場の西にありて二條通に面す  
 その北に出品人詰所荷解所あり郵便電信局出張所は  
 西南隅にあり各賣店は運河の對岸に設く  
 博覽會場の後門を出れば即ち大極殿なり  
 大極殿博覽會場の北、南、明治二十八年平安遷都千百年  
 祭につき紀念の爲め建設せしところにして明治二十  
 六年十月一日を以て工を起し同二十八年二月十五日  
 を以て落成す其構造規模能く延暦の制を摹したるも  
 のといふべし南面に神門ありこれを應天門といふ即  
 ち大極殿の正門なり高さ六十四尺壇上に立つ二層樓

大極殿

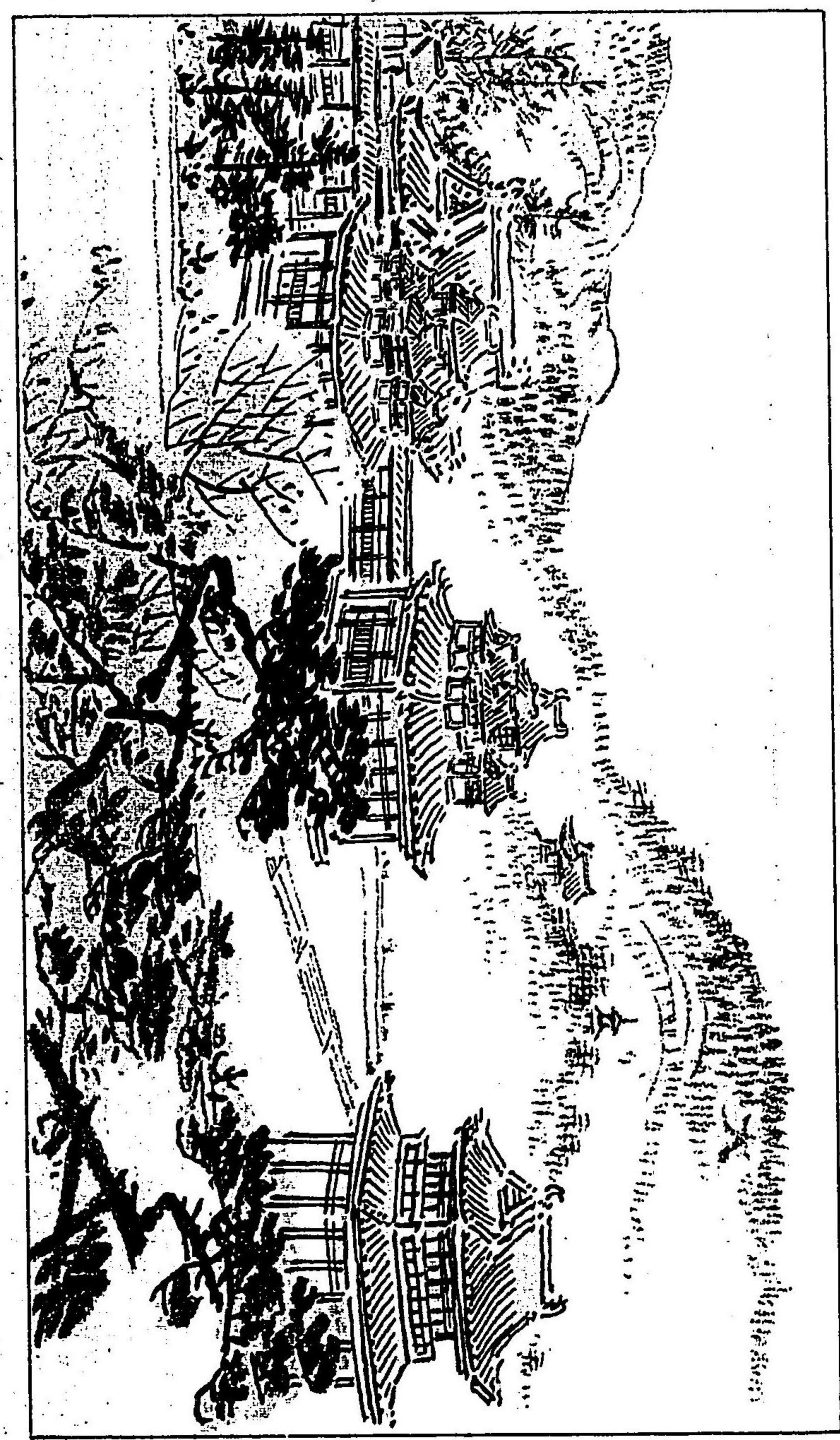




○大極殿

事務局及び審査室は會場の西にありて二條通に面す  
 その北に出品人詰所荷解所あり郵便電信局出張所は  
 西南隅にあり各賣店は運河の對岸に設く  
 博覽會場の後門を出れば即ち大極殿なり  
 大極殿博覽會場の西に在り南 明治二十八年平安遷都千百年  
 祭につき紀念の爲め建設せしところにして明治二十  
 六年十月一日を以て工を起し同二十八年二月十五日  
 を以て落成す其構造規模能く延暦の制を摹したるも  
 のといふべし南面に神門ありこれを應天門といふ即  
 ち大極殿の正門なり高さ六十四尺壇上に立つ二層樓

大極殿



にして屋上に金銅の鶏尾を懸く階上に椽あり椽に欄あり丹腹粉壁の装實に壯麗を盡せり應天門より北三十三間にして龍尾壇あり壇上に朱欄を設け左右に登路あり各三級の階を設くこれより北二十五間に至れば即ち大極殿なり殿は南面にして高さ五十五尺桁行百十尺梁間四十尺あり壇上に立つ壇の高さ五尺南北兩面に各九級の石階三個あり以て殿上に登る殿は中央を身舎とし四周廻らすに五十二の丹楹を以てす牀には翎鬘を合はせ屋には碧瓦を疊み金銅の鶏尾其上に燦然たり殿の左右に歩廊あり東西に走り又南折し

て二樓に通ぎ二樓東にあるを蒼龍樓といひ西にあるを白虎樓といふ其製相同じく各四隅に小樓を構へ中央に又一樓を層ぬ階上また椽を廻らし欄を設く其規模の宏壯なる構造の精巧なる一見これを望めば延暦の昔時を追懐せしむるに餘あり大極殿の北に神殿ありこれ即ち桓武天皇の神靈を鎮祭し奉る所にして明治二十七年五月神號を平安神宮と賜ひ官幣大社に列せられ來る明治二十八年四月三十日を期し神前に於て大に遷都紀念の祭典を舉行せんとす實に千載一遇の盛事といふべきなり

桓武天皇は光仁帝の御子にて御母は皇木夫人高野なり天皇剛毅英明の資を以て光仁帝の後を承け能く其志を繼ぎ精を勵し治を圖り平安京建奠と東夷征討との二大事業をなし以て帝業を恢弘し邦基を鞏固にし給ふ其平安京を経營せらるるとき殊に宸慮を留め給ひしは大極殿なり大極殿は朝堂院の正殿にして國家の正朝なれば百官萬人の瞻仰する所是を以て奠都千百年紀念祭の爲めこゝに此大極殿を奉して奉祝の意を表し且つ市民永く天皇の大徳鴻業を追尊し其神靈を鎮祭し奉らん爲にこれを建設せし所以なり

ニイラフニイ



疏水 疏水とは琵琶湖の西岸大津三保崎より長等山日  
 岡山等の諸嶺を貫き京都に達する大溝渠開鑿の工事  
 にして其水路は幹線と支線と鴨川運河との三より成  
 れりその總延長一萬六千四百二十一間七里二十一  
 り即ち水口は大津三保崎に起り三井寺の山麓より直  
 に逢坂山に入り千三百四十間の隧道第一隧道を貫流  
 して山科に出づ是より綿延曲流して日岡山に至り再  
 び四百六十七間の隧道第三隧道に入り終に蹴上舟溜  
 所に出づこれより岐れて幹支の二線となる幹線は直  
 に急勾配を以て二條の大鐵管中に入り水利工場を經

ニイラグニイ



○疏水

疏水 疏水とは琵琶湖の西岸大津三保崎より長等山日  
 岡山等の諸嶺を貫き京都に達する大溝渠開鑿の工事  
 にして其水路は幹線と支線と鴨川運河との三より成  
 れりその總延長一萬六千四百二十一町七里二十一町  
 り即ち水口は大津三保崎に起り三井寺の山麓より直  
 に逢坂山に入り千三百四十間の隧道第一隧道を貫流  
 して山科に出づ是より綿延曲流して日岡山に至り再  
 び四百六十七間の隧道第三隧道に入り終に蹴上舟溜  
 所に出づこれより岐れて幹支の二線となる幹線は直  
 に急勾配を以て二條の大鐵管中に入り水利工場を經

てインクラインの下に落ち西折して鴨川運河に達す  
これより鴨川の東岸を南流して伏見墨染インクライ  
ンを過ぎ遂に宇治川に合流す支線は蹴上舟溜所より  
再び隧道に入り南禪寺の背後に出で如意山麓を繞り  
高野川鴨川の河底を潜流して市の北端小川頭に至る  
水路の幅廣さところ六十尺狭さところ七尺五寸あり  
隧道は幹支線合せて六箇所あり又南禪寺の背後には  
才匠屋と俗に稱稱あり其他閘門あり堰門あり伏堰あり  
水溜あり水利工場はインクラインの南にありて蹴上  
舟溜所より急傾斜を以て管中に下るところの水壓力



南禪寺

○南禪寺

を利用して水車を轉じ大電動力を發せしむこの電動  
 力を以てインクライン上の船艇を昇降せしむるを始  
 めとし其他電氣鐵道電氣燈織物紡績擦絲等各製造所  
 に及びし諸般の機關を運轉せしむその利便の夥多な  
 る一々枚舉するに遑あらず實に九年間の歲月と百三  
 拾九萬圓の資財とを費し始めて成りたる大工事にし  
 て京都第一の壯觀なり

南禪寺 上京區南 第四回内國勸業博覽會場の東にあり  
 禪宗の大寺にして龜山法皇の皇居なりしが法皇深く  
 佛を信じ當寺の開山大明國師に賜ひて寺となし五山

を<sup>り</sup>用<sup>す</sup>して水<sup>すゐ</sup>車<sup>くるま</sup>を<sup>てん</sup>轉<sup>じ</sup>じ大<sup>だい</sup>電<sup>でん</sup>動<sup>どう</sup>力<sup>りき</sup>を<sup>はつ</sup>發<sup>せ</sup>せしむこの電<sup>でん</sup>動<sup>どう</sup>力<sup>りき</sup>を<sup>り</sup>以<sup>て</sup>てイ<sup>ん</sup>ク<sup>レ</sup>イ<sup>ン</sup>上<sup>じやう</sup>の船<sup>せん</sup>艇<sup>てい</sup>を<sup>しやう</sup>昇<sup>じやう</sup>降<sup>じやう</sup>せしむるを<sup>は</sup>始<sup>め</sup>めとし其<sup>その</sup>他<sup>た</sup>電<sup>でん</sup>氣<sup>き</sup>鐵<sup>てつ</sup>道<sup>だう</sup>電<sup>でん</sup>氣<sup>き</sup>燈<sup>とう</sup>織<sup>おりの</sup>物<sup>もの</sup>紡<sup>ほう</sup>績<sup>じき</sup>擦<sup>さつ</sup>絲<sup>し</sup>等<sup>とう</sup>各<sup>かく</sup>製<sup>せい</sup>造<sup>ぞう</sup>所<sup>しょ</sup>に<sup>ま</sup>及<sup>ま</sup>びし諸<sup>しよ</sup>般<sup>ぱん</sup>の機<sup>き</sup>關<sup>くわん</sup>を<sup>うん</sup>運<sup>うん</sup>轉<sup>てん</sup>せしむその利<sup>り</sup>便<sup>べん</sup>の夥<sup>くわ</sup>多<sup>た</sup>なる一<sup>まい</sup>々<sup>まい</sup>枚<sup>まい</sup>舉<sup>きよ</sup>するに違<sup>ちが</sup>あらず實<sup>じつ</sup>に九<sup>く</sup>年<sup>ねん</sup>間<sup>かん</sup>の歳<sup>さい</sup>月<sup>げつ</sup>と百<sup>ひゃく</sup>三<sup>さん</sup>拾<sup>じゅう</sup>九<sup>じゅう</sup>萬<sup>まん</sup>圓<sup>えん</sup>の資<sup>し</sup>財<sup>さい</sup>とを<sup>つひ</sup>費<sup>ひ</sup>し始<sup>は</sup>めて成<sup>あ</sup>りたる大<sup>だい</sup>工<sup>こう</sup>事<sup>じ</sup>にして京<sup>きやう</sup>都<sup>と</sup>第<sup>だい</sup>一<sup>いち</sup>の壯<sup>さう</sup>觀<sup>くわん</sup>なり

南<sup>なん</sup>禪<sup>ぜん</sup>寺<sup>じ</sup> 上<sup>じやう</sup>京<sup>きやう</sup>區<sup>く</sup>南<sup>なん</sup> 第<sup>だい</sup>四<sup>し</sup>回<sup>かい</sup>内<sup>ない</sup>國<sup>こく</sup>勸<sup>くわん</sup>業<sup>ぎやう</sup>博<sup>はく</sup>覽<sup>らん</sup>會<sup>かい</sup>場<sup>じやう</sup>の東<sup>ひがし</sup>にあり  
 禪<sup>ぜん</sup>宗<sup>しゆ</sup>の<sup>だい</sup>大<sup>だい</sup>寺<sup>じ</sup>にして龜<sup>い</sup>山<sup>さん</sup>法<sup>はう</sup>皇<sup>わう</sup>の<sup>くわう</sup>皇<sup>わう</sup>居<sup>き</sup>なりしが法<sup>はう</sup>皇<sup>わう</sup>深<sup>しん</sup>く  
 佛<sup>ぶつ</sup>を<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>じ當<sup>たう</sup>寺<sup>じ</sup>の<sup>かい</sup>開<sup>かい</sup>山<sup>さん</sup>大<sup>だい</sup>明<sup>めい</sup>國<sup>こく</sup>師<sup>し</sup>に<sup>たま</sup>賜<sup>たま</sup>ひて寺<sup>じ</sup>となし五<sup>ご</sup>山<sup>さん</sup>

橋 養 寺 禪 南





の上に置かせ給ひしといふ佛殿は本年一月火災に罹り  
 焼亡せり山門を五鳳樓といふ寛永年中藤堂高虎の  
 再建なり五右衛門階上は石川方丈には桃山御殿  
 の建物を移したる室あり其襖の畫は多く狩野探幽永  
 徳等の筆にして水飲虎の襖などその名世に高し山門  
 前に大なる石燈籠あり又山門の西南なる金地院には  
 東照宮の廟あり又天授庵には大明國師の塔所あり又  
 聽松院あり其庭中林泉の風景特に幽雅なり龜山法皇  
 の御廟は境内右方の山上にあり又疏水分線の水路閣  
 と呼ぶ樓閣境内の背後を過ぐ亦一の美觀にして構造頗

○南禪寺

永 觀 堂



○永觀堂

る 壯麗を極めたり

南禪寺山門の前より北に行く道あり二町にして永觀堂に至る

永觀堂 上京區南 來迎山禪林寺と稱し淨土宗西山派の

寺にして本尊を願所の彌陀佛といふ當山は其始め藤

原關雄の山莊なりしが文徳天皇齊衡年間に眞紹僧都

ここに佛刹を開基す第二世宗叡僧正學解の碩徳あり

清和天皇これに歸依し給ひ貞觀五年に定額とし名を

禪林寺と賜ふその後十數代の住職に永觀律師といへ

るあり三論の碩匠にして毎日佛前に於て念佛を唱ふ

永 觀 堂



○永觀堂

三十八

る壯麗を極めたり

南禪寺山門の前より北に行く道あり二助にして永觀

堂に至る

永觀堂（永觀堂）上京區南 來迎山禪林寺と稱し淨土宗西山派の

寺にして本尊を願所の彌陀佛といふ當山は其始め藤

原關雄の山莊なりしが文徳天皇齊衡年間に眞紹僧都

ここに佛刹を開基す第二世宗叡僧正學解の碩徳あり

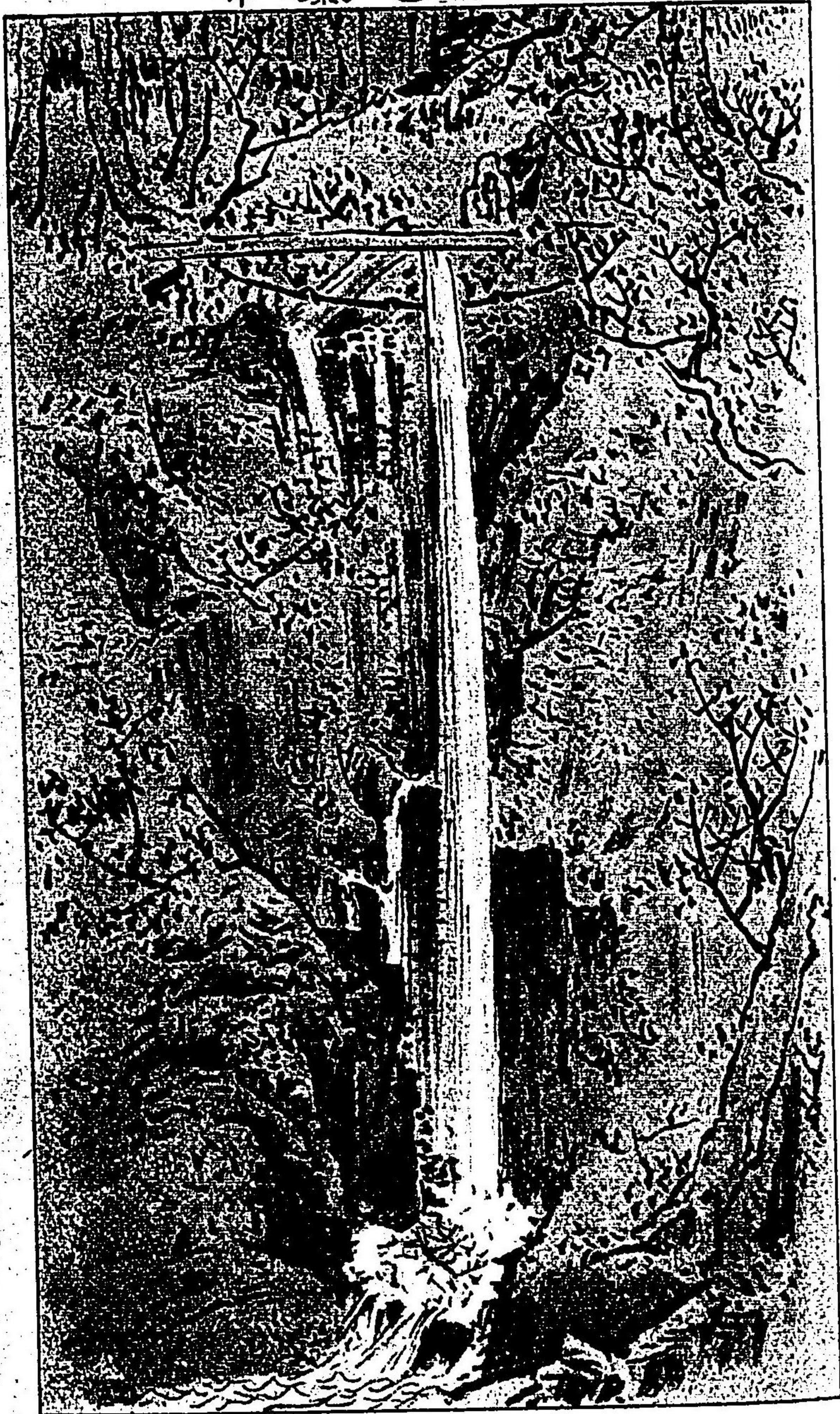
清和天皇これに歸依し給ひ貞觀五年に定額とし名を

禪林寺と賜ふその後十數代の住職に永觀律師といへ

るあり三論の碩匠にして毎日佛前に於て念佛を唱ふ

るごと一萬遍より二萬遍に及び行道念佛聲を惜まざ  
勤行しけるが或朝例の如く衆僧と共に行道念佛せる  
に奇異なるべし彌陀佛俄に壇上より下り共に行す律  
師信感のあまり乾の方に向ひてこれを避けしはし隣  
隣しければ本尊左を見返りて永観遅しといへり律師  
感涙を流しこれ偏に末世の衆生を攝取引接するの證  
驗なりとて遂にこの像を以て本尊とし室を永観堂と  
名く故に本尊を世に願所の彌陀佛と稱しその名世に  
高し境内池あり鶯池といふ池邊は一面楓樹にして秋  
霜樹梢を染むる候には黄葉紅樹池水に映じて燦爛

若王子寺瀑布



○若王子

四十

たり池畔茶店を設け都下の遊客杖を絶たせ門前の來  
往頗繁なり永觀堂の北隣に若王子あり

若王子上京區南 後白河天皇の創立にして熊野神社を

勸請す本社創立の初は樓門殿宇等壯麗をつくせしよ

しなりしが應仁の亂に東軍の屯する所となりてより

その後益荒廢に及び近來唯數字の小祠をのみすに至

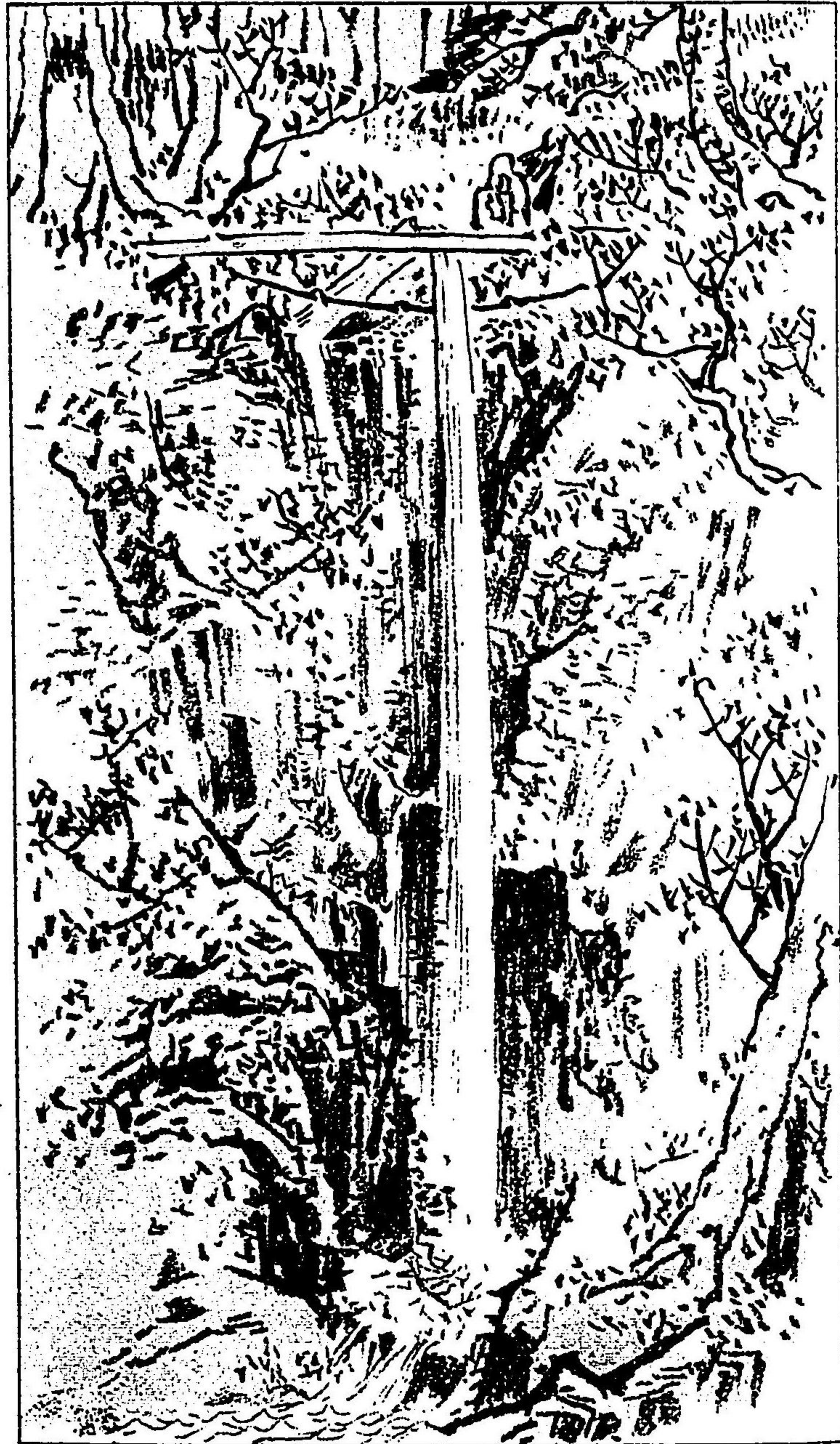
れり社上山腹の地は昔時庭園の舊址なりといふ近年

信仰の徒楓樹櫻樹等を寄栽し山中に風流の亭舎を設

け大に美觀を添へたり溪間の奥には三個の瀑布あり

一三の瀑布といふ那智山の瀑布を模したるものなり

若王子寺瀑布



○若王子

四十

たり池畔茶店を設け都下の遊客杖を絶たせ門前の來往頻繁なり永觀堂の北隣に若王子あり

若王子 禪寺町 南

後白河天皇の創立にして熊野神社を

勸請す本社創立の初は樓門殿宇等壯麗をつくせしよしなりしが應仁の亂に東軍の屯する所となりてより

その後益荒廢に及び近來唯數字の小祠をのみすに至

れり社上山腹の地は昔時庭園の舊址なりといふ近年

信仰の徒楓樹櫻樹等を寄栽し山中に風流の亭舎を設

け大に美觀を添へたり溪間の奥には三個の瀑布あり

一の瀧、二の瀧、三の瀧、紀州那智山の瀑布を模したるものなり

といふその水清冽にして四邊幽邃の景愛すべし又杜鵑花あり梅花あり四時の佳境賞するに堪へたり炎暑の頃に至れば露布の下に涼を納るゝの客常に絶ゆることなし

光雲寺上同 靈芝山と號す若王子の北に隣る禪宗にして南禪寺天授庵英仲和尚の再興に係るいにしへこの地に靈芝生じて光雲天に映せり東福門院御覽ありて靈塲とし遂に寺院を建立し給ひしとぞ故に靈芝山光雲寺と號す

岡崎町上京區 大極殿の東北にあり以前岡崎村と稱せ

○光雲寺 ○岡崎町

しが近年市中に編入せられ岡崎町と稱す此地從來文人墨客の隠栖せし所にて洛東の一勝地たり芭蕉翁小澤蘆庵中嶋棕隱等の宅址あり此地南は栗田山華頂山の翠光を括み近くは大極殿の碧瓦金瑤燦然たるを掬すべし幽静閑雅にして市中喧鬧の憂なく緝紳富豪の別荘等多し

蒲願寺 上京區 岡崎町にあり示現山と號す法華宗にして元祿年中日享上人の開基にかゝる本尊は釋迦牟尼佛多寶如來を安置す堂前の南に關伽井あり即ち昔時法勝寺の關伽井の遺趾なり又此所に俊寛僧都の宅あり

りしといふその遺跡の碑は本堂の右傍にあり

聖護院 上京區 聖 岡崎の西にあり世々法親王の住職し給ひし所にて三井門主の隨一なりその初め智證大師の開基にて常光院と號せしが中世これを聖護院と改めり當院中興の祖増譽僧正は三井寺の長吏にして又熊野三山の別當たりし故に當院もまた修驗道を兼ね山伏を總管せり山伏に天台具言の二派あり具言派のもの三寶院に屬し天台派のものは當院に屬せしといふ現今當院は山階宮の住邸となれり

熊野神社 上 後白河上皇の勅願により熊野新宮を勧請



せし所なりその創建の時は土砂岩石樹木花草に至るまで悉くこれを熊野より移し來り境内廣大にして宮殿には金銀珠玉を鑲め樓門廻廊祓舎經堂等具備せざるはなく大に壯麗をつくせしが應仁の亂兵火に罹りこの地魚土となり大に荒廢せり寛文中修營を加へ現今の形狀に復す

織物會社 熊野神社の西北 明治二十年の創設にして綬子紋織其他各種の織物を製造し又傍ら染物撚絲等の業を營み其精出す所のもの實に精巧美麗を極ひ現今その使役する職工七百五十餘人ありといふ

岡崎聖護院吉田附近の農民は殊に菜蔬類を作ること巧にして毎年仲春頃には胡瓜茄子の初物を出す又尾張種の太蘿蔔等を作り日毎にこれを擔ひ市に鬻ぐを常とす

黒谷 上京區 紫雲山金戒光明寺と號す淨土鎮西派四個本山の一なり昔時法然上人居住の舊跡にして叡山西塔の黒谷を模したるにより初め新黒谷と稱せしが現今は單に黒谷と稱す本尊には圓光大師上人の像を安置す●紫雲石 堂前にあり元祖大師一宗開發のときこの石上より紫雲たなびき異香四方に薫じけるとな

り故に山號を紫雲山といふ●鐘懸松 堂前にあり熊  
 谷直實遁世のとき著せし鐘を池にて洗ひこの松の枝  
 上にかげ乾したりといふ●勢至堂 法然上人の廟堂  
 にして勢至菩薩を安置す世に上人は勢至菩薩の化現  
 なりといへり●教盛塔 勢至堂の左にあり元暦元年  
 二月攝州一の谷にて熊谷直實に討たる行年十六歳●  
 直實塔 同所にあり熊谷直實一の谷の戦後法然上人  
 の教に歸依し出家して蓮生法師といふ承元二年寂す  
 行年八十歳●三層塔 石階の上にして山の半腹にわ  
 り文珠菩薩を安す日本三文珠の一なり

當寺には古今名士の墳墓多し石川主馬佑吉信澤村大  
 學助天野半介正清山本權兵衛尉義安山崎闇齋等の碑  
 あり●境内すべて自然の山林に據り樹幽に苔青くま  
 た洛東の一勝地たり

眞如堂 土京區淨 鈴聲山眞正極樂寺と號す天台宗にし  
 て戒算上人の開基なり本尊は阿彌陀佛の立像にして  
 慈覺大師の作なりといふ●元三大師堂 本堂の北に  
 あり●方丈 大師堂の北にあり●三重塔 堂前の南  
 傍にあり釋迦彌陀觀音彌勒を安置す  
 境内楓樹多くして秋錦燦然たるの候には遊客瓢杖を

携へて來り賞するもの多し  
 眞如堂門前に茶店ありこの裏手に陽成天皇の御陵あり又門前の北に迎稱寺あり其西に芝薬師あり寺内に元國將來の關羽像を祀れり又其西に極樂寺東北院あり東北院内には關白道長公像和泉式部塔軒端梅雲水井等あり東北院の西に後一條天皇の御陵あり近年兆域を廣め大に修營を加へ壯麗なりこの御陵の南より吉田山に登る路あり

吉田山 吉田町 神樂岡と稱す眞如堂の西に在り南北四町餘に亘れる一帯の山丘なり丘上平坦にして險峻の

坂路なし茶店あり丘上の眺望清絶にして浴中の市街手に取るが如し暮春際岡満開の候に至れば都人の來遊するもの甚多し丘上の南に卜部家齋場あり日本全國の神祇三千餘座を勧請せり

吉田神社 吉田町 吉田山の西麓にあり官幣大社の一なり貞觀三年中納言藤原山蔭始て祀る所にして武甕槌神齋主命天津兒屋根命姫大神の四座を鎮す殿舎壯麗にして疆域頗る廣し殿の西の傍に御供所あり鳥居は西の方二町許の所にありその間一帯の青松にして風景幽遠なり例祭は毎年四月十八日なり吉田神社の西

に高等學校あり  
 高等學校 上京區 文部省の直轄にして本校は明治元年  
 大阪に舎密局を建設せしに創まり爾後數回の沿革を  
 歴て明治十九年に至り第三高等中學校と改稱し其位  
 置を京都に定む學區域は京都大阪滋賀三重岐阜兵庫  
 鳥取嶋根岡山廣嶋山口和歌山徳嶋愛媛高知の二府十  
 三縣にして二十二年八月校舎の新築落成しこの地に  
 移轉す二十七年高等學校令出るに及び更に第三高等  
 學校と改稱し組織大に變じ法科工科醫科の三科を置  
 く現今職員二十九人生徒二百十二人ありといふ高等

學校の北に百萬遍あり

百萬遍 田中村 長徳山知恩寺と號す淨土宗鎮西派四個  
 本山の一なり草創は慈覺大師にして其始は天台宗な  
 りしが法然上人加茂の神勅に依てこの寺を授りこゝ  
 に住して専修の法要を談せしより遂に今の宗旨とな  
 りたりその後善阿上人のとき元弘元年國中疫癘大に  
 流行して死するもの其數を知らず後醍醐天皇深くこ  
 れを憂ひ善阿に勅してこれを祈らしめ給ふ善阿七日  
 を限り専心念佛すること一百萬遍に及び惡癘忽ち止  
 み天下安堵す天皇叙感殊に深く當寺に百萬遍の號を

賜ひ又弘法大師の書せし六字の名號を賜ひしといふ  
 本堂には元祖圓光大師の坐像を安置す○本師堂 本  
 堂の前東の傍にあり慈覺大師作の釋迦牟尼佛を安置  
 す○經碑 堂前東の傍にあり阿彌陀經を刻せり筑前  
 國善導寺の模しなりといふ  
 境内には櫻花數十株あり又當寺には古齋の什寶多し  
 百萬遍の門を出れば東に向ふ道あり門前より行くこ  
 と二町半許にして左の方田畝の中に後二條天皇の御  
 陵ありまた此道を眞直に東に往けば銀閣寺白川村等  
 に至る

寺 園 銀



賜ひ又弘法大師の書せし六字の名號を賜ひしといふ  
 本堂には元祖圓光大師の坐像を安置す○本師堂 本  
 堂の前東の傍にあり慈覺大師作の釋迦牟尼佛を安置  
 す○經碑 堂前東の傍にあり阿彌陀經を刻せり筑前  
 國善導寺の模しなりといふ  
 境内には櫻花數十株あり又當寺には古書こふの什寶多し  
 百萬遍の門を出れば東に向ふ道あり門前より行くこ  
 と二町半許にして左の方田畝の中に後二條天皇の御  
 陵ありまた此道を眞直に東に往けば銀閣寺白川村等  
 に至る



銀閣寺（上京區淨土寺町） 禪宗にして慈照寺と號し夢想國師の  
 開基なり當寺は舊と足利義政閑居の別荘にして義政  
 薨去の後遺命により佛寺となす佛殿本尊には釋迦牟  
 尼佛を安置す銀閣は二層閣にして上層を心空殿とい  
 ひ下層を潮音閣といふ圓池は相阿彌の作にして後方  
 の山を月待山といふ洗月泉あり落照岡あり銀沙灘わ  
 り向月臺あり其他橋には分界橋迎仙橋灌錦橋臥雲橋  
 等より石には天柱峯回雁峰北斗石落星石等に至るま  
 で各その形状に隨てその名を命せり實に半片の石一  
 株の樹木に至るまで皆築庭の法園藝の術によらざる

○銀閣寺

はなく宛も大山水の妙景を小庭の林泉中に縮めてこれを一望の中に眺むるが如しとしてその名尤も世に著し又東求堂あり義政の像を安置せり茶室は東求堂の東端にありこれ抹茶家のいはゆる四疊半の濫觴なりといふ銀閣寺の南二町にして法然院あり

法然院 鹿谷にあり善氣山萬無寺と號す淨土律宗無本寺にして常念佛の寺なり開基は萬無心阿上人にして本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作なり境内の風光樹深く苔滑に松風蕭颯として梵聲幽谷に徧く實に清淨の界無塵の境といふべし

安樂寺 上京區

法然院の南にあり本尊は阿彌陀佛にして惠心僧都の作なり當寺にひかし法然上人の徒弟住蓮安樂といへる二僧住せしが後鳥羽院の寵妃松蟲鈴蟲の二女一向專修を發心して住蓮安樂に隨ひ竊に宮中を忍びいでこの庵室に來り薙髮して尼となる上皇逆鱗ありて二人の僧を死罪に行はせ又その師たる法然上人を土佐國に左遷し給ふこれに依てこの庵室永く荒廢せしをその後念佛弘法の舊跡なりとて寺院を建立し住蓮山安樂寺と稱せしといふ○松蟲鈴蟲塔 本堂の東の山にあり○住蓮安樂塔 北の門の傍にあり



り五輪の石塔二基を立つ

鹿谷 鹿谷町の後方の山を稱す此邊の名産に番南瓜あり其形奇にして他方の産と異れり世に鹿谷南瓜と稱す

ふ

談合谷 鹿谷町より鹿谷を登ること十餘町許の所にあり奇岩怪石眺望頗る壯絶なりむかし此所に法勝寺の

執行俊寛の山莊あり治承の初め新大納言成親僧都俊寛平判官康頼丹波少將成經ここに集會し遊宴に托し平氏を滅すの陰謀を企てしとぞ

樓門瀧 談合谷の上にあり又如意瀧ともいふ

如意嶽 鹿谷町の東方の山を稱す世に大文字山といふ山上より三井寺に出る路ありこれを如意越といひ行程二里あり

大文字送火 毎年八月十六日の夕京都の諸山に送火を

點する數個所われども就中この如意嶽に點する大文字火を最も壯快とす其光分明炬赫にして都下の衆人争うてこれを觀る(青山爲紙火爲墨點々綴成象物形日暮峯頭何所似却疑字舞列唐廷字舞とて舞人若干人地上に於て太平萬歳の字形を) 鹿谷町を南に往けば若王子なり故にこれより叡山に

○如意嶽 ○大文字送火

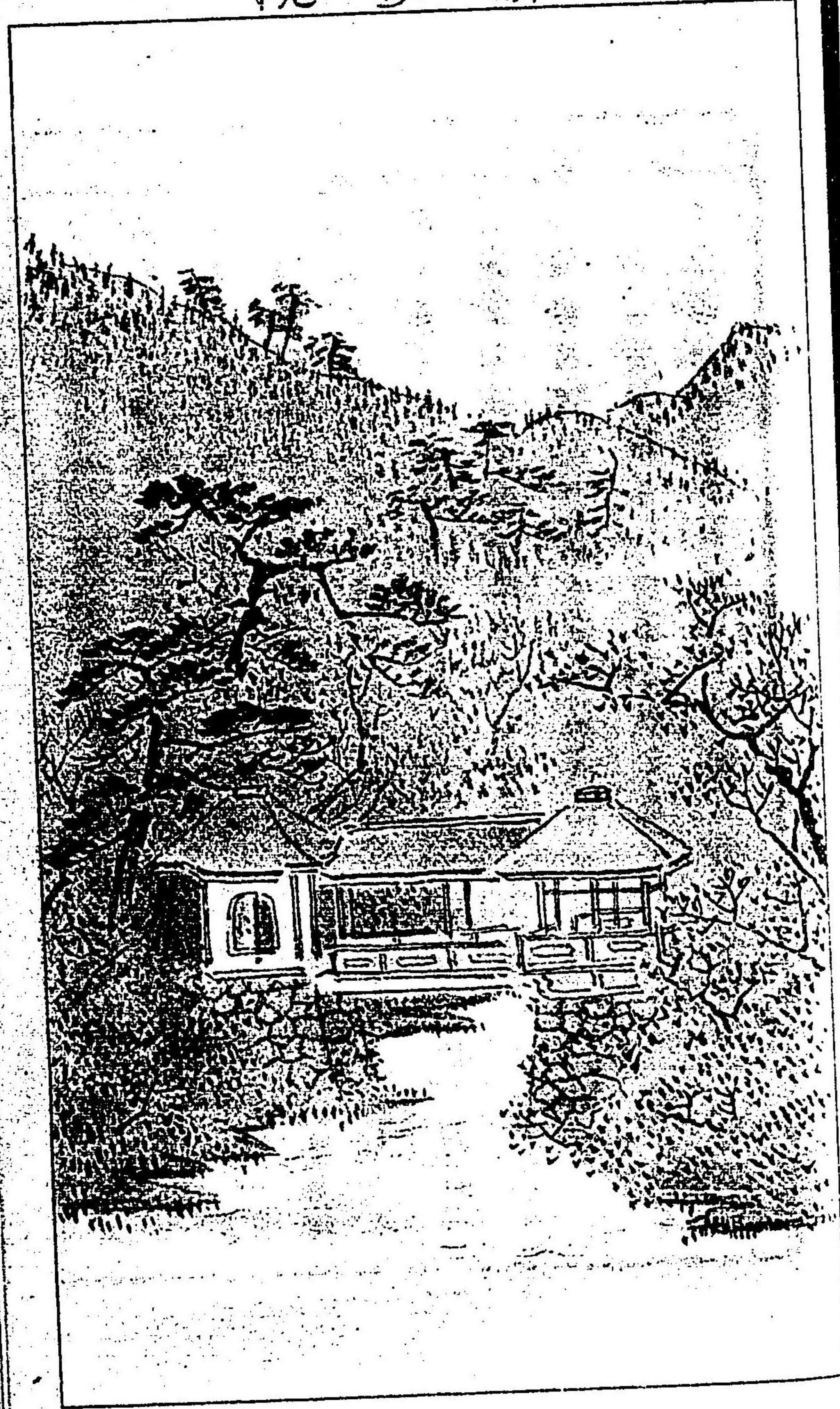
登り八幡大原に至り更に北部の名勝を探らんと欲するものは再び故の路に戻りて銀閣寺門前を過ぎ白川村に往くべし

白川村白愛川村 銀閣寺の北にある一村落なり此邊は花岡石の産出地にして村民石工を業とするもの多し白川は民家の中間を西流す此村より江州坂本に出る路ありこれを志賀越といふ又比叡山に登る路あり此邊風光殊に賞すべく水聲は漸瀝として翠苔は逕を蓋へりまた笕の水にめぐる水車あり溪間を流るる紅葉あり村歌斷續して鶏犬聲相應するさまなど得るいはれ

宅宛む武陵桃源の仙境に入れる心地せらる古來より歌に白川を詠せしは此邊の風光を賞せしなり(山河に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり) 列傳道 白川の春の梢を見渡せば松こそ花の絶間なり

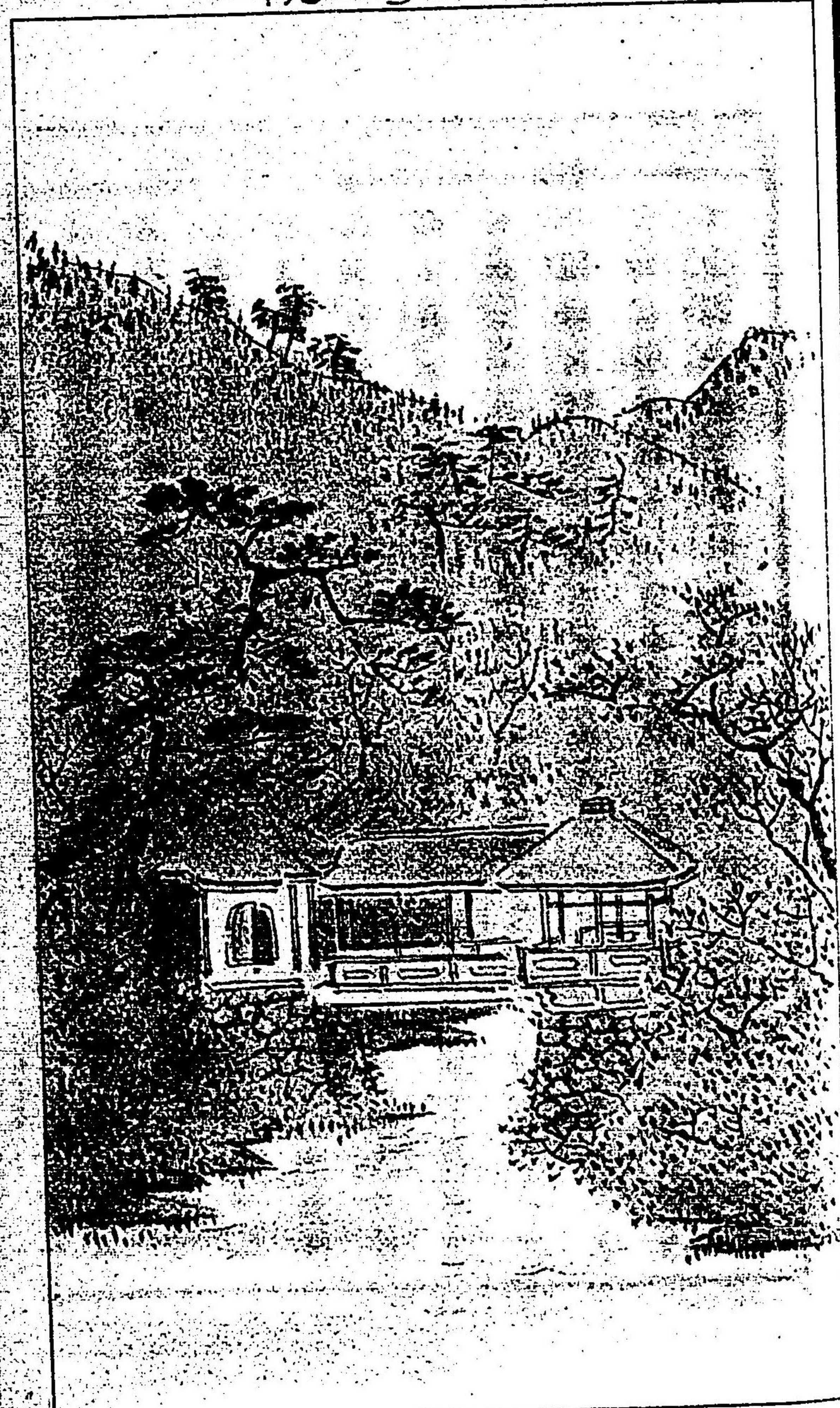
詩仙堂 乘寺村郡一 石川丈山の隱栖したる山莊なり丈山嘗て本朝三十六歌仙に撰して漢晉唐宋の詩人三十六家を撰び狩野尚信をして其像を畫かしめ自らその詩を題し堂に掲ぐ故に詩仙堂と名づく其他丈山の遺物多し堂の建築古雅にして風景幽邃寂寞なり丈山の墓

院學脩



〇修學院離宮  
 六十  
 は頰仙洞と稱し詩仙堂の東南山上にあり詩人三十六  
 家の名は蘇武左陶潛右謝靈運左鮑昭右杜審言左陳子  
 昂右李白左杜甫右王維左孟浩然右高適左岑參右儲光  
 毅左王昌齡右韋應物左劉長卿右韓愈左柳宗元右劉禹  
 錫左白居易右李賀左盧仝右杜牧左李商隱右寒山左靈  
 徹右林逋左邵雍右梅堯臣左蘇舜欽右歐陽脩左蘇軾右  
 黃庭堅左陳師道右陳與義左魯幾右なり  
 修學院離宮愛宕村後水尾天皇御造營の離宮にして  
 往時は修學院といへる寺ありたりといふ林苑を分ち  
 て上御茶屋下御茶屋とす下御茶屋には晴月觀藏六庵

院學脩



○修學院離宮

六十

は頂仙洞と稱し詩仙堂の東南山上にあり詩人三十六  
 家の名は蘇武左陶潛右謝靈運左鮑昭右杜審言左陳子  
 昂右李白左杜甫右王維左孟浩然右高適左岑參右儲光  
 羲左王昌齡右韋應物左劉長卿右韓愈左柳宗元右劉禹  
 錫左白居易右李賀左盧仝右杜牧左李商隱右寒山左靈  
 徹右林逋左邵雍右梅堯臣左蘇舜欽右歐陽脩左蘇軾右  
 黃庭堅左陳師道右陳與義左魯幾右なり  
 修學院離宮聖德太子後水尾天皇御造營の離宮にして  
 往時は修學院といへる寺ありたりといふ林苑を分ち  
 て上御茶屋下御茶屋とす下御茶屋には晴月觀藏六庵

等の亭榭の櫻楓枝を交えて蔭鬱たりその幽邃の景  
 勝げて言ふべからせ上御茶屋には鄰雲亭止々齋窮遠  
 軒等あり鄰雲亭はその中最大なるものにして高處に  
 臨み林泉を悉く一望するを得べしその林泉の絶勝な  
 る得るいはれ池あり浴龍池といふ奇樹怪石を點綴  
 し排置一として凡なるものなし近年又林丘寺といへ  
 る所に中御茶屋を設けらる殿舎壯麗にして庭園頗る  
 雅致あり修學院八景あり左の如し

鄰雲夜雨 茅檐秋月 村路晴嵐 修學晚鐘  
 遠岫歸樵 松崎夕照 叡峯暮雪 平田落雁

離宮拜觀の手續は皇居に同じ  
 比叡山 日本五嶽の一にして京都の東北に聳え城江二  
 州に跨る高山なり桓武天皇奠鼎のとき天皇傳教大師  
 に勅して伽藍を此山上に建てしめ延暦寺と名づけ以  
 て帝都の鎮護となさしめ給ふ根本中堂講堂戒壇堂相  
 輪塔等古昔の建築尙存せり嶽中最も高さものを四明  
 嶽といひ海面を出ること二千七百餘尺なり絶頂の眺  
 望城江の湖山を雙眸の間に撮めその壯絶雄偉なるい  
 はん方なし京都よりこの山に登るに三路あり一は白  
 川村よりし一は修學院村よりし一は八瀬村よりす修

學院より登るもの坂路最も險峻なり白川村より登る  
 もの行程稍多しといへども平易なり但し白川村より  
 登れば無動寺辨無動寺にはを過ぎて中堂に至る又この  
 山を東に下れば江州坂本に出でそれより日吉神社唐  
 崎大津三井寺等湖岸の名勝を探ることを得べし  
 赤山社愛宕郡那 修學院村の東山下にありこの社は慈  
 覺大師唐土より歸朝のとき背に白羽の矢を負へる明  
 神船上に出現して天台の守護神なりとの神託を受け  
 大師歸朝の後これを此地に勧請せしといふ  
 御蔭社愛宕郡高野村 高野川の東叡山の西麓にあり上古下鴨

皇太神宮降誕の地なり故に御生山といへるとぞ  
 八瀬の里八瀬村 高野村より二十町北にありむかし天  
 武帝大友皇子と位を争ひて山城の北に馳給ひしとき  
 皇子の軍追かけ奉りて帝を射ければ帝の御背に矢中  
 がけり故に矢背といふ此地に今も龍風呂と稱し一種  
 の蒸風呂あるは當時帝の矢癢を療せん爲に作り初め  
 しものなりといふ又此村に天神社ありその鳥居の前  
 に辨慶香競石といへる高さ八尺許なるありむかし叡  
 山西塔よりこゝに携へ來りしなりといひ傳へり  
 大原の里大原村 八瀬より北の方一里にあり東西八個

村寺村、上野村、大長瀬村、來迎院より成れる一郷な  
 り古歌に大原に行くとはなしに戀すれば八瀬とはり  
 ぬるものにぞありけるといへるは能く人口に膾炙し  
 て八瀬大原の地名を適切に詠じたるものといふべし  
 八瀬より大原に至る間は今に古昔の風俗を存して甚  
 質朴なるどころあり世に大原女を畫ける様あり女は  
 頭上に物を戴き紺の衣服に白き脚半を裝して日々市  
 中中に來りて物を賣りありくさま今に變せを一種の風  
 味あるものといふべし  
 又八瀬大原邊の村民には炭焼を業とするもの多くむ

かしより大原の炭竈を跡せる歌あまたあり（思ふこと大原山のすみがまはいといなげきの敷をこそつめ

井少尼）  
惟喬親王墓 大原村宇上野村にあり又其近傍に宇御所

田といへる所あり親王閑居の地なりしといふ

融通寺 大原來迎院村の東にあり良忍上人の開基にし

て本尊は阿彌陀佛なり堂前右の傍に獅子石といへるありひかし上人此寺にて文珠の秘法を修せしとき化して獅子となりたりとぞ

來迎院 融通寺の東にあり良忍上人の開基にして本尊

は三尊にして中央は藥師佛なり此地は元と叡山西塔の北谷にして昔は子坊百餘宇もありしといふ院の前に在る橋を羅漢橋といひひかしこの橋上に十六羅漢示現せしといふ

音無瀧 來迎院の東四町許にあり飛泉高さ二丈餘にして翠巖に沿ひて徐々に落ち石に激するの聲徹なり故に音無瀧といへるなり水流岐れて二派となり南流するを呂川といひ北流するを律川といふ漢土魚山の呂律川に像りたるものなりとぞ○小斧捨敷 呂川の北にありひかしこの所には熊谷蓮生師實法然上人と大



原問答のとき熊谷小斧を袖に隠し上人に向ひていひけるは師もし問答に負け給はば法敵を打殺さんため  
 の用意なりと上人これを聞き大にこれを制しければ  
 そのまゝ小斧をこの所に打捨てたりといふ  
 圓融院 大原村勝林院村にあり舊と天台座主の住せし  
 所にて梶井宮又梨本坊と稱せり寺内に極樂院といへ  
 る一院あり惠心僧都の妹安養尼の住せし庵室の舊跡  
 なり又院の後の山に賣炭翁の墓ありひかし此所にて  
 炭を焼初めし翁なりといふ  
 證據彌陀 圓融院の北にあり魚山勝林寺と號す寂源法

師の圓基にして本尊を證據彌陀と稱すひかし法然上人  
 この佛前に於て山門の座主顯眞法印その他諸宗の  
 學徒と一向專修の問答しけるに上人の議論するときは  
 は彌陀光明を放ちしといふこれを世に大原問答とい  
 ひ顯眞并に學徒等みな上人の智徳に服せしとぞ  
 後鳥羽順徳二帝陵 勝林寺の門前右の傍に實光坊とい  
 へるありこの院中に兩帝の御陵あり遺詔により隱岐  
 佐渡の行宮より御遺骨をここに移して葬り奉りしと  
 いふ  
 阿彌陀寺 勝林院より半里北にあり古知谷光明山と號

し淨土宗の寺なり開基は彈誓上人にして本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作なり開山堂は本堂の右にあり彈誓上人自作の像を安す

寂光院 大原草生村にあり弘法大師の開基にして本尊地藏菩薩は聖徳太子の作なり文治の頃建禮門院高倉清盛の女尼となりここに閑居し給ひしより後終に尼寺となれり院の後なる翠黛山といへる山に建禮門院の御陵あり又その前なる山は平家物語に記したる門院の弄草蕨茶を摘みに入り給ひし山なりといふ又沚の沚沚の櫻等の古跡あり（池水にみぎはの櫻ちりし

きて涙の花こそさかりなりけれ河院白思ひきや深山の  
かくにすまるして雲井の月をよそに見んとは門院  
又この地は杜鵑の名所にして綠蔭ふかき頃には都下  
の遊人遠さを厭はせ來りてその聲を賞するものあり  
廬の清水 寂光院の傍にありひかしよりその名世に高  
し（八重むぐらしげれる下にひすぶてふ廬の清水夏  
もしられを屏わが戀は廬の清水若こえてせきやる方  
もなき心かな頼）

江文社 大原井出村にあり祭神は宇賀魂命にして大原  
郷の氏神なり江文社の後山に火壺雨壺風壺と名づく

る山間自然の三窟ありその状壺に似たり土民雨を乞ふときは雨壺に祈り晴を乞ふときは火壺に祈るに必き應驗ありといふ

大原の北に小出石村ありこの村より江州途中村に出るを龍華越といふ即ち比叡山比良嶽兩山脈の分界する所なり途中村より龍華村の方に向へば江州今宿に至り又在地村の方に向へば堅田江八等に至り湖邊の名勝を探ぐることを得べし又江文社の西に靜原峠ありこれを越ゆれば長谷村岩倉村等に出でそれより鞍馬山貴船にも往くことを得べし

東部下 川以東三條以南  
字 治 醍醐に至る

蹴上 南 西 寺 東海道大津より京都に至る入口なりこれより粟田口白川橋を経て三條通に接す疏水船溜所あり疏水大津行船乗場あり●傳云ふひかし源牛若丸金賣吉次に具せられ奥州に下らむとするとき此所に於て關原與市重治といへる武士通りがより牛若丸の美少年なるを見てこれに蹴れ路傍の水を蹴上げれば牛若丸其無禮を怒り遂に與市を斬り捨てたり依てこれより此地を蹴上といへるとぞ

粟田口 東三條通 蹴上より白川橋までをいふこの邊は京

○蹴上 ○粟田口

知 恩 院



○粟田神社 ○青蓮院

七十四

都有名の粟田焼の産出所にして左右に陶器師軒を連ね各種の器物を製して店頭に飾れり近年貿易事業開けしより年々海外に輸出するもの夥多なり帶山錦光山などいへる名匠あり

粟田神社 田上京區粟田郷社にして八王子を祭り舊と感神院新宮と稱せり祭例は毎年十月十五日にしてこの日神興渡御あり銚十五本白川橋に於て曲持をなし見物の興を催すを例式とす就中阿古太矛と稱するもの神寶なりといふ

青蓮院 同上 俗に粟田御殿といふ舊と御門跡にて天台座

知 恩 院



○粟田神社 ○青蓮院

七十四

都有名の粟田焼の産出所にして左右に陶器師軒を連ね各種の器物を製して店頭に飾り近年貿易事業開けしより年々海外に輸出するもの夥多なり帶山錦光山などいへる名匠あり

粟田神社上京區粟郷社にして八王子を祭り舊と感神院新宮と稱せり祭例は毎年十月十五日にしてこの日神興渡御あり鈴十五本白川橋に於て曲持をなし見物の興を催すを例式とす就中阿古太牙と稱するもの神寶なりといふ

青蓮院同 俗に粟田御殿といふ舊と御門跡にて天台座

主法親王の御所なり始祖は傳教大師にして中興は大僧正行玄和尚なり殿舎樓臺壯嚴なる建物なりしが惜むべし前年回祿の災に遭ひ烏有となれり有名の能書家尊圓親王の住せられし此院にして什寶には嗟峨天皇の宸翰等あり

智恩院 林下京區 青蓮院の南にあり華頂山大谷寺と號し淨土宗鎮西派の總本山にして洛東第一の巨刹なり舊と法然上人吉水山房の舊跡なりしが滿譽和尚の時東照宮の台命に依り嶮岨を夷らげ遂に今の伽藍を建立せり本堂須彌の壇上に圓光大師上人の像を安す堂の

表面に掲げたる大谷寺額は後奈良帝の宸翰なり山門も宏壯なる建物にして樓上には寶冠の釋迦佛十六羅漢等を安し門額華頂山の三字は靈元帝の宸筆なり方丈は本堂の背に在り廻廊を渡りてこれに通を廊下は鶯張にして方丈には上中下段鶴間梅間菊間鶯間柳間等の各室あり其額の書はいづれも狩野諸大家の畫く所にして有名なるもの多し集會堂も亦本堂の後にあり本尊文殊菩薩を安す●阿彌陀堂 本堂の西の傍にあり●經堂 本堂の東の傍にあり藏經は唐福州開元寺の藏本なりといふ●鐘樓 本堂の左南に當れる高

所にあり洪鐘を懸く鐘の長さ一丈八尺厚さ九寸五分銘六字名號靈嚴上人の筆寛永年中の鑄造なり御忌の法會にこれを撞く其聲浴中に達す此鐘樓の前より圓山の也阿彌左阿彌樓温泉場等に至る路あり●勢至堂 本堂の東山上にあり●一心院 勢至堂の南にあり捨世道場ともいふ●元祖廟堂 勢至堂の上にある堂内厨子の内に五輪の石塔を安す●蓮華藏 廟堂の南にあり彌陀佛を安す●茶所 本堂の前南側にあり泰平亭の額を掲げ甕に鐵の大釜を掛く信徒の龜前に詣づるものは必き此に憩ふを例とす春秋の良辰はいふ

八坂神社



○智恵院

七十八

も更なり毎年四月十九日より一七個日の御忌大法會  
 には都下の婦女子衣裳くらべとて綺羅紅粉のいでた  
 ちにて往來する光景亦奇觀といふべし●櫻馬場山  
 門の前より西に通る廣道にして道の兩傍皆櫻樹に  
 して花時には殊に美觀をさはむ此外山門石壇の傍に  
 小鍛冶井址打ちへい時此に來て此水を用ひ近名鍛を瓜  
 生石瓜には牛頭天の文字あり瓜草生ひ其等あり境  
 内櫻樹あり世に名高し多くして松樹其間に點綴  
 す春風胎蕩たる日には紅綠相映じ秀麗人目を悦ば  
 す實に東山第一の名勝地たり

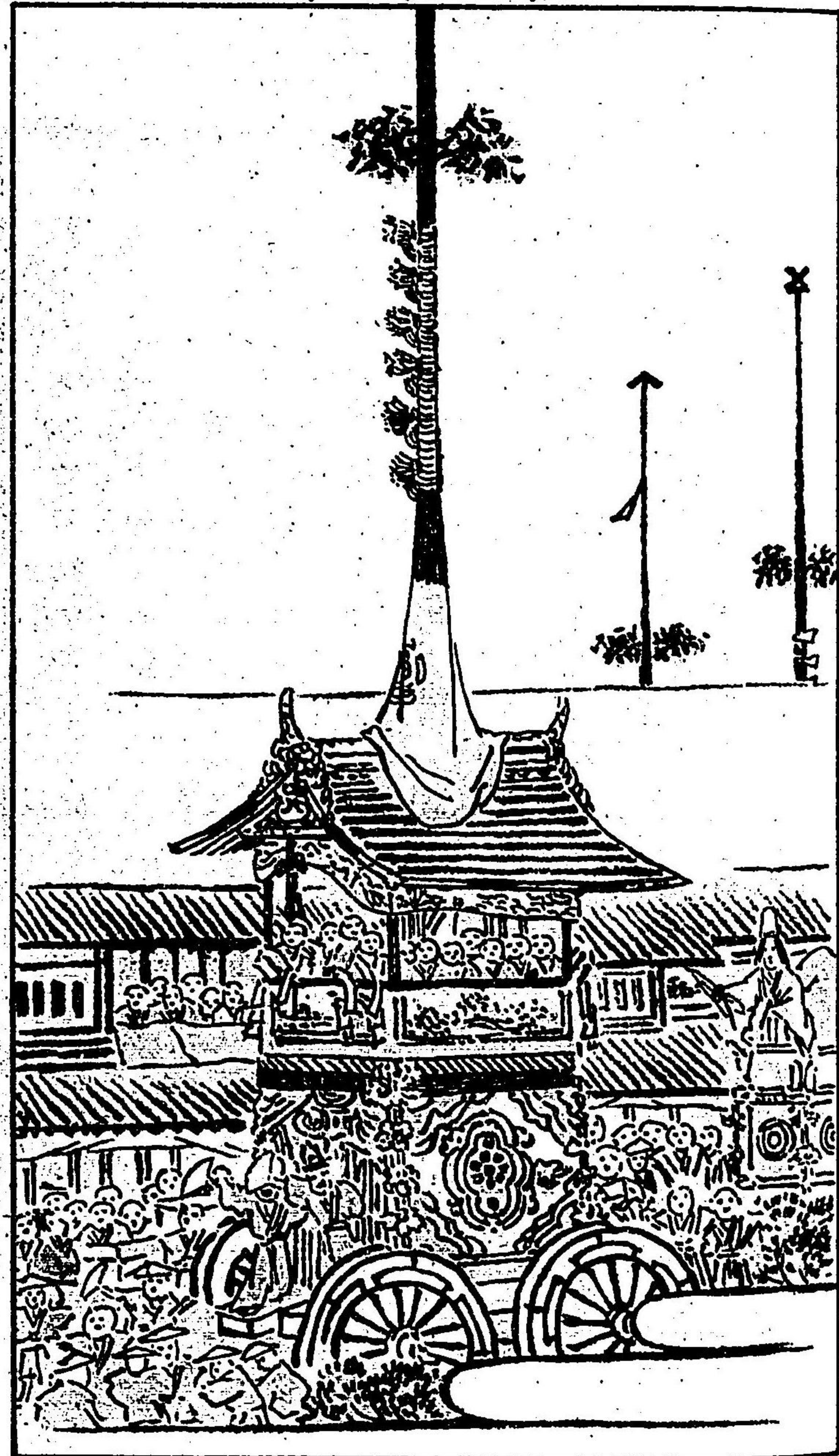


八坂神社



〇智恩院  
 七十八  
 も更なり毎年四月十九日より一七個日の御忌大法會  
 には都下の婦女子衣裳くらべとて綺羅紅粉のいでた  
 ちにて往來する光景亦奇觀といふべし●櫻馬場 山  
 門の前より西に通る廣道にして道の兩傍皆櫻樹に  
 して花時には殊に美觀をさきはむ此外山門石壇の傍に  
 小鍛冶井址打ちへい時此に來て此水を用ひ近名鍛冶を瓜  
 生石瓜はかし牛頭天の下の文字あり瓜草生じ其等あり境  
 内櫻樹あり世に名高し多くして松樹其間に點綴  
 す春風胎蕩たるの日は紅綠相映じ秀麗人目を悦ば  
 す實に東山第一の名勝地たり

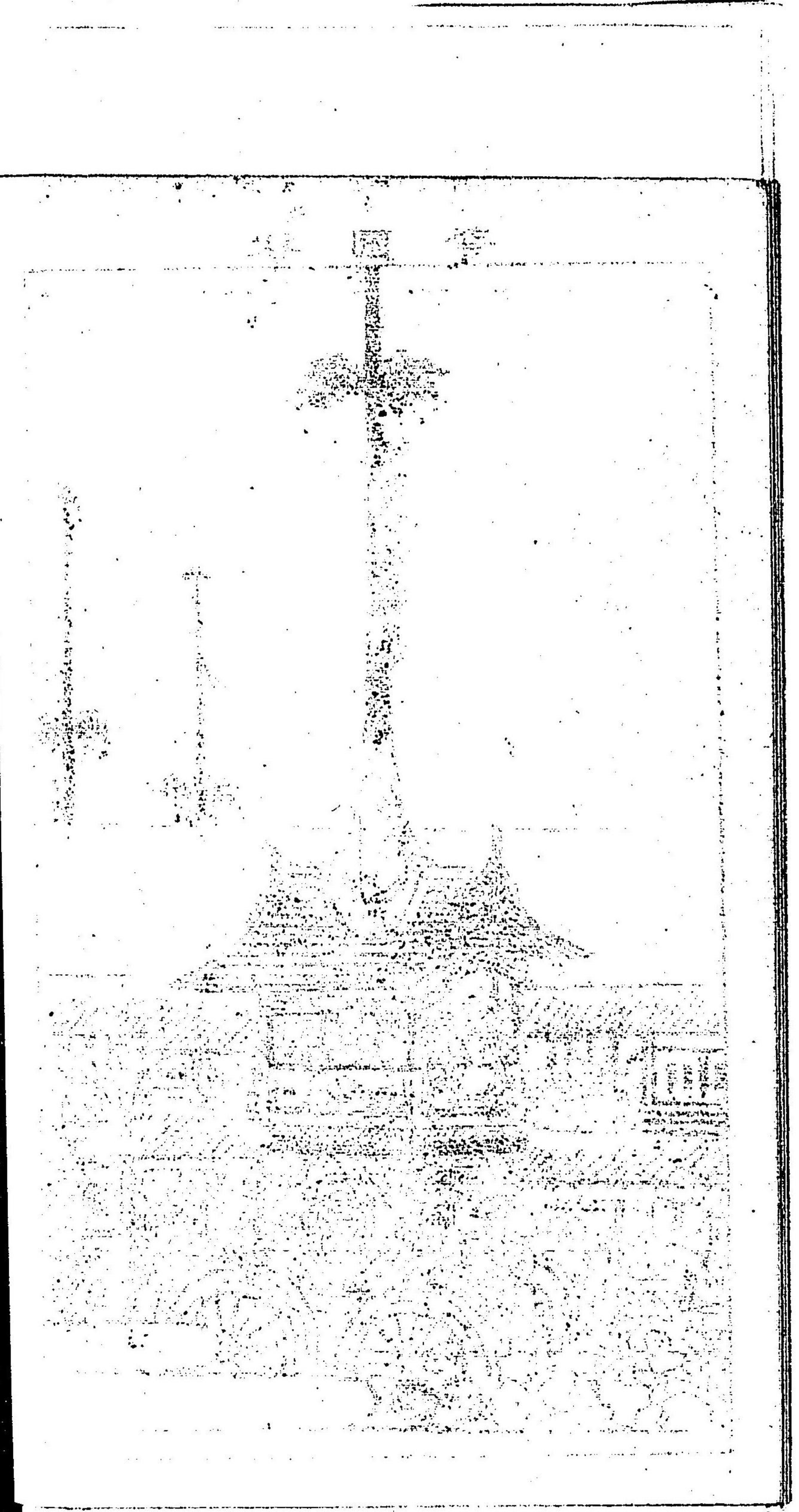
祇園祭



祇園會は本社（ほんしや）の私祭（しさい）にして京都諸祭（きやうとしよささい）中最壯觀（さいさうくわん）なるものなり即ち毎年七月十七日（まいねんしちがつしちじち）と同二十四日（どうにじゅうよっぴにち）に施行す十七日に神輿本社（かみこほんしや）を出御四條寺町御旅所（しよつぎやうじやうごりよ）に神幸（かみゆき）あり此に七日間駐蹕（ちゅうすい）二十四日に至り再び還幸（わんさう）せらる市内各町より各種の山鉾（やまぼこ）を曳出し山鉾の数は十七又祇園町より遊女の練物等（あそびのねものら）を出し互に華美を競ふの事あり神輿の供奉に古代武者の裝飾せるものあり山鉾の飾物には皇國の物のみならず支那印度西洋の巧妙なる織物等あり此外鉾の屋蓋裏面には應舉景文等の畫あり偶人にも名作のものあり獨り其美觀を賞するのみ



圖 四



ならを能くこれを注意せば美術工藝家の模範参考と  
なるもの多しといへり

圓山まるやま社しゃ八坂やつか東ひがし八坂神社やつかじんしゃを出れば即ち圓山公園まるやまこうえんにして此  
間の路傍みちのわき小丘こおかみの上に垂枝櫻しだれざくらの大樹おおいしぎあり有名なる櫻に  
して萬條ばんじょうの垂枝しだれ蔭數畝かげかずあしを覆へり開花かいかの頃ころには瓊瑤空けいりやうくう  
を蔽おほひうたゞ行人かきんをして歩あゆを俾まかしむ夜間よかんには其下そのした  
に篝火かきりを點てんじ四周ししゅう茶店ちあてんを設たてく狂歌爛醉きやうからんさいの客跡きやくあとを絶たた  
き實じつに艶麗えんれいといふべしこれを祇園ぎげんの夜櫻よざくらといふ又此  
邊へんを眞葛原まきづかひらといひ古來こらいより詠歌えいか多おほし（我戀わがこひは松まつをし  
ぐれのそめかねて眞葛原まきづかひらに風かぜさわぐなり鎮ちん）此邊風このへんかぜ

景明媚佳絶にして都下第一の遊樂地なり茶亭割烹店  
 矢場其他遊技場花園等あり就中其尤なるものは平野  
 家園山道の右にあり菊園ともいふ菊の奇牡丹圃側左  
 丹を培養せり杜櫻林東に野家の等なり又圓山の高みに至  
 らんとする所に小門あり圓山總門といふ門に入り左  
 にあるを左阿彌といひその上なるを也阿彌といひ右  
 なるを正阿彌といふ此等は舊と叡山に屬せし坊舎に  
 て後ち時宗の僧の住せし所なりしが後世伽藍等荒廢  
 して遂に現今の酒館茶亭とはなれり左阿彌正阿彌は  
 和風の酒樓にして都人置酒大會の席等に供し也阿彌

は西洋料理店にして箱紳或は外國人等の旅館をも兼  
 んぬ又最高の所に鑛泉場あり三層樓にして浴室客房等  
 粧飾の美麗を極めり又此邊に朝暉亭梅か設けたる家  
 あり亭以上いづれも京都有名の樓にして皆眺望佳絶  
 なり樓に登り欄に凭れば洛中の山川より市街の繁盛  
 なる光景を兩眸の中に撮りて望むことを得べし也阿  
 彌樓の上に吉水あり辨財天の祠あり其上に安養寺と  
 いへる時宗の寺あり又左に向へば知恩院鐘樓堂の前  
 にも出ることを得べし  
 長樂寺の圓山 時宗にして國阿上人の中興なり本尊千手

八臂十一面觀音像は傳教大師の作なりこの地唐の長樂精舎に髣髴たるを以て長樂寺と號せしとぞ文治元年建禮門院御落飾の時當寺の印誓上人を戒師とし給ひ御布施に安徳帝の御衣を賜はる上人その御衣にて十六旗の幢を作り菩薩を吊ひ奉りしといふ今に至るまで當寺の什寶とせり現今は堂宇荒廢し門外に假屋を設けり當寺の北なる山上に頼山陽の墓及び春琴居士の碑あり

將軍塚 頂丸山の經 桓武天皇貞觀の時平安城の久遠を新り八尺の土偶人を作り鐵の甲冑を着せ弓箭を持たせ

西向にして此山上に埋め永く此京の守護神となし給へりといふ天下に災害あらんとする時には塚必を鳴動すとなり山上の眺望圓山に比すればさらに廣潤雄偉にして山城の山川諸邑手に取るが如くに見ゆ  
 祇園町 橋東 八坂神社 西樓門 石壇下より四條橋に至る間をいふ町の左右青樓娼家軒を聯ね萬春樓又万亭といふ井筒樓などいへる大樓あり又演劇場あり四條南座といふ又花見小路祇園町南に祇園館あり近年創設に係る都踊毎年四月七日間興行なといとめづらし此所の名産に香煎あり竹筒或は陶器に入れこれを鬻ぐ

熱湯に點じて飲めば其味佳美なり遠近の遊客求めて  
家土産とす

四條橋 四條通鴨川に架す石柱にして鐵欄を設く

長さ五十四間幅四間あり橋の中央に電燈を點す橋東  
は祇園の柳巷に聯り橋西は先斗町の花街に接す此邊  
京都繁華の中心にして橋上人馬の往來絡繹織るが如

し

四條橋納涼 毎年七月に至れば四條より三條に至る鴨

川の水流少き礫上に假床を据ゑ料理店茶菓店氷店等  
を出し來客の納涼休憩に供す又觀物興行借馬等あり

毎夕薄暮より遊客群を成し繁華雜選を極む軒頭萬點  
の燈火を燒く其光煌々として宛も白晝の如し一種の  
奇觀といふべし又兩岸の青樓旅亭席貸等は水に臨て  
涼臺を設け絃歌の聲喧囂たり

蛭子社 大和路四條南 祭る所の蛭子命の像はひかし

建仁寺の開山榮西禪師入宋の時隨身し此像に祈りて

途中風波の難を遁れしを以て歸朝後この所に勸請せ

しといふ毎年十日蛭子には都人群集して雜選を極む

建仁寺 大和路 禪宗臨濟派五山の一にして建仁年中

源頼家の建立榮西禪師の開基なり佛殿には本尊釋迦

卒尼佛を安す方丈は其北にあり堂宇壯大にして境内  
 廣濶なり松樹多くあり深翠枝を交へ清風耳を洗ふ河  
 原院古鐘は佛殿の北にあり昔し陀羅尼經を誦しなが  
 ら此鐘を撞きし故に其鐘聲を世に建仁寺の陀羅尼と  
 稱ふ中門を矢立門と呼び舊と平家の一族門脇宰相教  
 盛の館門にして軍箭の痕扉にありし故かく名けしと  
 いふ南門の傍に摩利支天あり嘉曆二年宋の清拙和尚  
 唐土より將來せし靈像なりとぞ  
 有樂館見小園花 織田有樂齋の住せし所にて舊と正傳院  
 と稱し建仁寺子院の一なりしが現今寺院を離れて有

樂館と稱し都人大會宴集の席に供す庭後に有樂齋の  
 墓あり庭園林泉みな有樂齋の作にして雅致あり  
 東大谷東大谷の南山 眞宗大谷派本願寺の廟所にして同宗門徒  
 の遺骨を納むる所なり堂宇壯麗にして門前に松林わ  
 り樓閣燦然として其間に映き亦洛東の一佳境なり阿  
 彌陀堂の本尊は安阿彌の作にて親鸞上人の廟所は後  
 の山腹にあり墳上に虎石あり其形虎に似たり  
 ●東大谷の前に梅尾といへる料理屋ありむかしより  
 名ある家にて其器具多く楓の模様を附せり又祇園鳥  
 居の傍に中村樓あり又東大谷の南に鳥居本ありいづ



れも調理よろしく評判高し  
 雙林寺 下河原 傳教大師の開基にして其初天台宗なり  
 しが其後國阿上人の住せしより時宗となれり本尊藥  
 師佛は傳教大師の作なり西行法師嘗て此寺に閉居し  
 建久二年に寂せり西行庵西行櫻等の遺跡あり其塔は  
 本堂の西の傍にあり又性昭平判官阿法師の塔あり  
 り共に西行の塔と相並べり又芭蕉碑圓山應舉碑あり  
 又文阿彌といへる料理店あり圓山諸樓の如く時宗の  
 僧の住せし所なり當寺現今荒廢せしといへども名流  
 の遺址多きを以て文人騷客來て其跡を訪ふもの多し

●芭蕉堂 雙林寺舊境内西行庵の西にあり小宇にし  
 て芭蕉翁の肖像を安せり翁嘗て西行法師の風を慕ひ  
 茲に住せしといふ ●大雅堂 有名なる畫家池野無名  
 の住せし處にて安永五年此所に歿せり門人其舊居の  
 跡を空くせんことを恐れて此に一堂を建て大雅堂と  
 號せり大雅夫妻の遺墨及び遺愛の器物等を藏せりと  
 いふ

安井神社 建仁寺 祭神中央を安徳天皇とし左を金毘羅  
 とし右を源三位頼政とすひかし大織冠鎌足公此地の  
 風景を愛し自ら藤花を植ゑ家門の長久を祈りしより

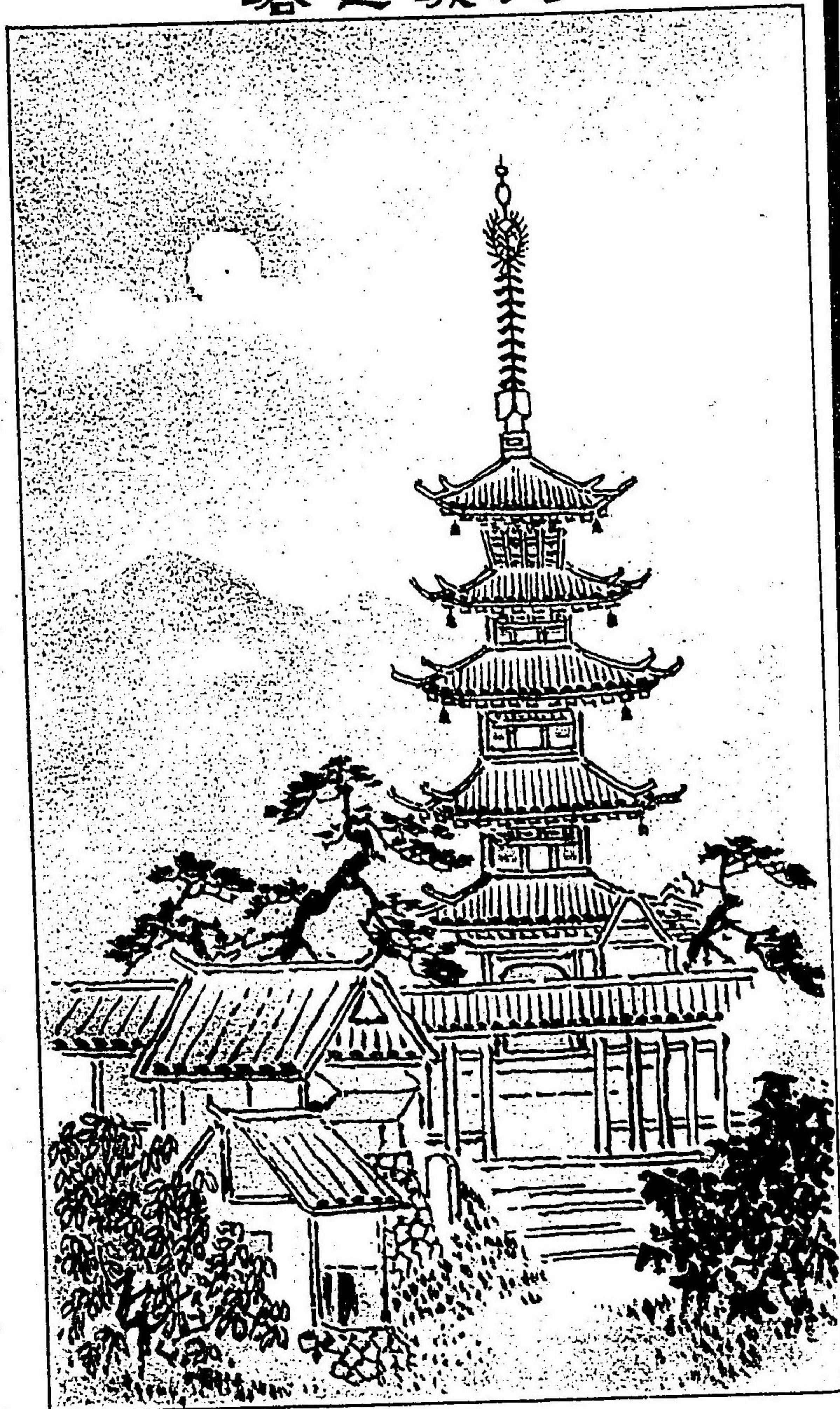
往昔此所を花の寺と稱せりといふ後ち崇徳天皇其藤花を愛せられ履行幸あり終に殿舎を此に作り阿波内侍を住せしめ是より絶えせ行幸ありけるが保元の亂天皇讚岐に遷幸あり尋で同國行宮に崩御ありしに及び此に本社を建立して其靈を鎮し奉れりといふ

高臺寺 原河 鷲峯山高臺寺と號す禪宗にして建仁寺に屬す當寺は豐太閤の夫人北政所高臺院の建立にて堂宇壯麗なりしが前年燬失せり太閤及夫人の靈舎は尙存す其中に時雨亭傘亭などいへる茶亭あり又方丈の唐門は秀吉公の船樓を以て作りしといふ境内胡枝花

を以て其名高し秋風漸く冷なるの候に至れば瓢杖を携へて來り遊ぶもの多し當寺に龍草廬貫名海屋等の墓あり

靈山の上 舊と傳教大師の開基にかゝれる正法寺といへる寺院あり堂宇壯麗なりしが現今は荒廢して招魂壇となり維新前後憂國殉難の士及び勤王戦死者の靈を祭る所となれり表忠の銅碑あり三條公の撰文なり山上に殉難志士の墳墓あり中に木戸孝允の墓等あり明治九年十月創めて招魂祭を擧げしより爾來毎年十月十五日には盛なる祭典を行ふ山上の眺望頗るよ

八坂之塔



○八坂塔

く洛中洛外及山西の秀景悉く目睫の間にあつむることを得べし

●八坂塔を下り下河原通に出で南に往けば八坂塔あり  
 八坂塔下河原通 靈應山法觀寺と稱し聖徳太子の創立に係  
 れりむかしは堂宇伽藍頗る壯麗を盡したりしが現今  
 荒廢して僅に五重塔のみ屹然として存す  
 此邊を八坂と稱するは舊と北は祇園より南は清水に  
 至るまでの郷名にして祇園坂長樂寺坂下河原坂法觀  
 寺坂靈山坂三年坂山の井坂清水坂の八の坂ありしに  
 據れりといふ

八坂之塔



○八坂塔

く洛中洛外及山西の秀景悉く目睫の間にあつひるこ  
とを得べし

● 靈山を下り下河原通に出で南に往けば八坂塔あり  
八坂下河原通 靈應山法觀寺と稱し聖徳太子の創立に係  
れりひかしは堂宇伽藍頗る壯麗を盡したりしが現今  
荒廢して僅に五重塔のみ屹然として存す  
此邊を八坂と稱するは舊と北は祇園より南は清水に  
至るまでの郷名にして祇園坂長樂寺坂下河原坂法觀  
寺坂靈山坂三年坂山の井坂清水坂の八の坂ありしに  
據れりといふ

●八坂塔より東南に廻れば松原通に出づそれより又  
 東に向へば清水坂にいたるべし此間に三年坂あり其  
 上に經書堂、嬭堂等の佛堂あり又此邊より清水に至る  
 間は左右兩側に京都名産なる清水焼陶器店あり軒を  
 列ね各種の陶器を飾れり  
 庚申堂の西塔 延命院と稱し本尊青面金剛を安す大坂  
 天王寺東京淺草寺の庚申と共に日本三庚申と稱せり  
 子安觀音前南側 泰産寺と號すむかし光明皇后御懷  
 妊の時安産を天照太神に祈らせ夢に觀音の小像を授  
 かり遂に安産し玉ふ皇后乃ち當寺を建立せられ此小

○庚申堂 ○子安觀音

清水寺



○清水寺

九十六

像を今の本尊千手観音の胎中に藏めて安置し給へり  
といふ後世妊婦の安産を祈るもの皆靈驗炳然たり故  
に子安観音と稱すとぞ

清水寺一町目 大同二年坂上田村麻呂公の創立にして  
大和の僧延鎮靈夢に感じ異人行叡より授かりし靈木  
を以て刻める十一面四十臂千手観音を安置す堂宇は  
檜皮葺殿舎造にして東山第一の古刹なり此地嶮崖に  
して平坦ならを伽藍の前面は樓を懸崖に架せり世に  
之を清水の舞臺といふ樓上より下瞰すれば人をして  
戰慄せしむ世人往々観音に祈誓し結願の日に此舞臺

清水寺



○清水寺

九十六

像を今の本尊千手観音の胎中に藏めて安置し給へり  
といふ後世妊婦の安産を祈るもの皆靈驗炳然たり故  
に子安観音と稱するとぞ

清水寺一町目 大同二年坂上田村麻呂公の創立にして

大和の僧延鎮靈夢に感じ異人行劔より授かりし靈木  
を以て刻める十一面四十臂千手観音を安置す堂宇は  
檜皮葺殿舎造にして東山第一の古刹なり此地峻崖に  
して平坦ならむ伽藍の前面は椽を懸崖に架せり世に  
之を清水の舞臺といふ椽上より下瞰すれば人をして  
戰慄せしむ世人往々観音に祈誓し結願の日に此舞臺

より飛下る者あり大低皆死すといふ近年柵を設けて  
 これを禁せり溪間には音羽瀧あり其名世に高し堂の  
 北に地主権現あり其畔に地主櫻あり又奥院三重塔田  
 村堂朝倉堂隨求堂等の堂宇あり一々擧ぐる遑わらず  
 此地眺望頗る佳絶にして山城西南一帯淀川の長流な  
 ど白布の如く見え河内金剛山より淡路嶋邊に至るま  
 で横糊として雲烟の間に望むことを得べし又境内櫻  
 楓多くして春秋共に遊興盡さず又雪景に頗るよし  
 ●音羽瀧の南を歌の中山といふ其奥に清閑寺あり  
 清閑寺五清水寺より十 延暦廿年紹繼法師の草創にして



中興は佐伯公行時一條のなり初め天台宗なりしが後ち眞言宗となれり寺内に六條高倉兩天皇の陵あり又高倉帝の寵姫小督の隠栖せし所にて其墓あり此邊を歌の中山と稱するはひかし當寺の僧に眞燕といへるあり一夕門外に美女の通り行くを見て忽ち愛心生じ煩惱の念起りしかば態と清水寺に行く道を尋ねければ其女「みるにだにまよふ心のはかなくてまことの道をいかでしるべき」といへる歌を詠じ何處ともなく立去れりとぞ依て此邊を歌の中山といふ

●清水寺より澁谷越に出れば山科醍醐に至ることを

得べし又清水に戻り樓門前左の傍より南に下る路あり是より鳥邊山を過ぎ西大谷に至るも可なり又直に松原通に出で六波羅密寺珍皇寺等を順覽するも可なり

愛宕念佛寺仁松原通建 眞言宗にして弘法大師の開基なり中興は傳燈大法師にて法師常に念佛を口にして絶たざりしより世稱して念佛上人といひ且つ此寺を念佛寺と呼べり本尊は千手觀音を安置す

六波羅密寺東松原通念佛寺の 空也上人の開基にして本尊十一面觀音は堪慶の作なり西國十七番の札所なり

○六道珍皇寺

百

又平相國清盛の像ありひかし此邊は六波羅北方の館  
 舎にして池殿町といへる町は其舊址なりといふ天曆  
 五年天下疫癘流行して死するもの其數を知らせ空也  
 上人これを憐み十一面觀音像を車上に載せ洛中を自  
 ら引き歩きて祈禱せしといふ其像即ち現今の本尊な  
 り鏡池あり空也上人自ら其姿を池水に寫し己の像を  
 刻めりといふ又阿古屋塚あり五條坂の遊君阿古屋を  
 葬りしとも又は牛若丸の愛女牛王姫を葬りしともい  
 ふ當寺は眞言宗にして智積院に屬す

六道珍皇寺松原通六波羅密寺 慶俊僧都の開基にして

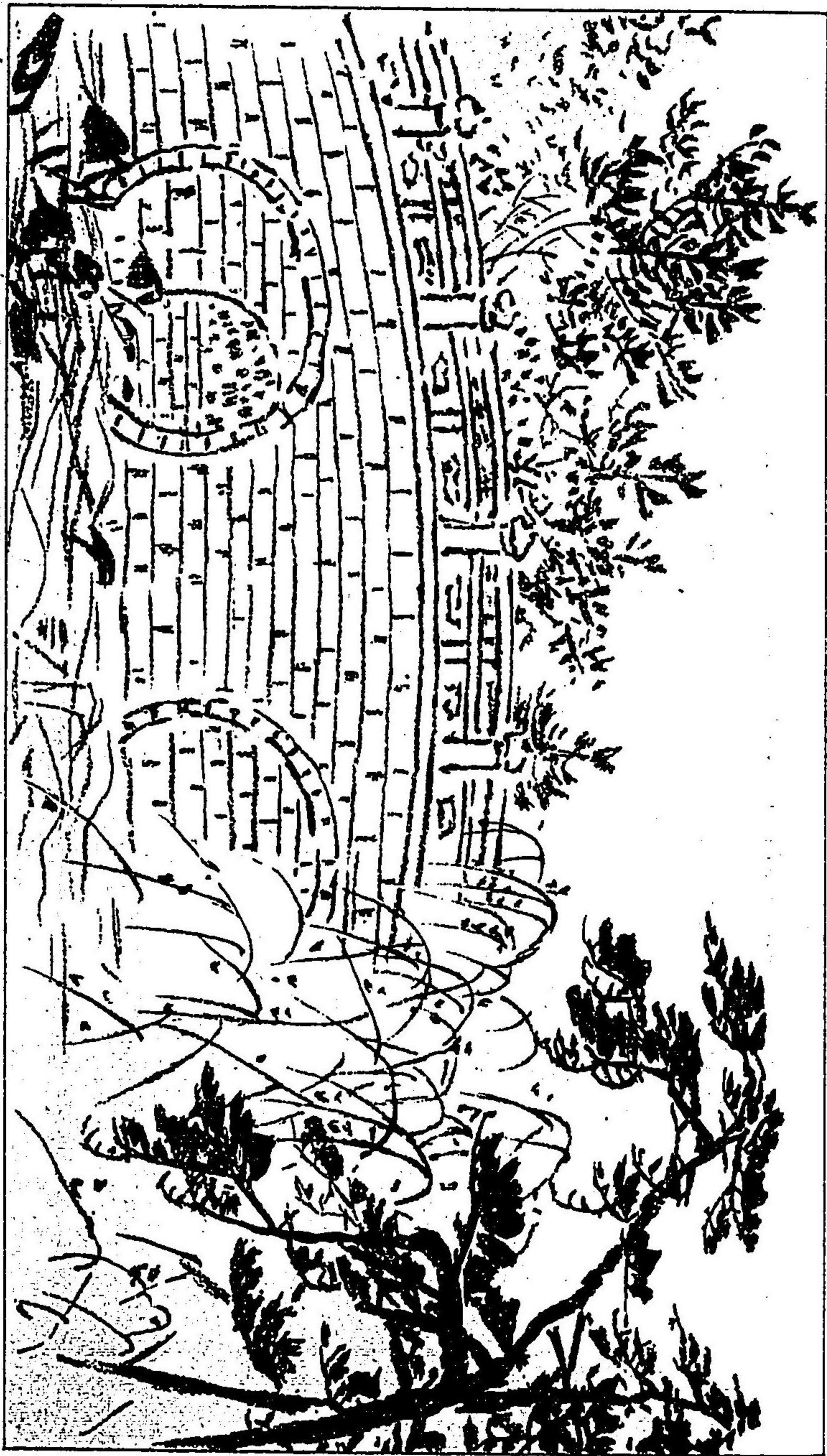


○六道珍皇寺

百

又平相國清盛の像ありひかし此邊は六波羅北方の館  
 舎にして池殿町といへる町は其舊址なりといふ天曆  
 五年天下疫癘流行して死するもの其數を知らせ空也  
 上人これを憐み十一面觀音像を車上に載せ洛中を自  
 ら引き歩きて祈禱せしといふ其像即ち現今の本尊な  
 り鏡池あり空也上人自ら其姿を池水に寫し己の像を  
 刻めりといふ又阿古屋塚あり五條坂の遊君阿古屋を  
 葬りしとも又は牛若丸の愛女牛玉姫を葬りしともい  
 ふ當寺は眞言宗にして智積院に屬す

六道珍皇寺松原通六波羅密寺 慶俊僧都の開基にして



中興は弘法大師なり本尊中央は薬師佛にして左右脇  
 壇には地藏菩薩と小野篁の像を安置す又眞堂閻魔堂  
 わり又石地藏あり長さ七尺餘弘法大師の作なりとい  
 ふ毎年聖靈祭には都人此地蔵に参詣して亡魂を迎へ  
 楨の枝を買ひ家に還り靈前に手向けんとて群集雜選  
 を極む又小野篁生さながら地獄に往還せしといへる  
 路も當寺の境内にありしと言傳へり  
 西大谷五條通東眞宗本派本願寺の廟所にして親鸞上  
 人の本廟なり本堂は阿彌陀佛を安し廟所は本堂の東  
 の上にあり左右石垣あり顯如上人以來代々の墓あり